

Ⅲ 調査結果

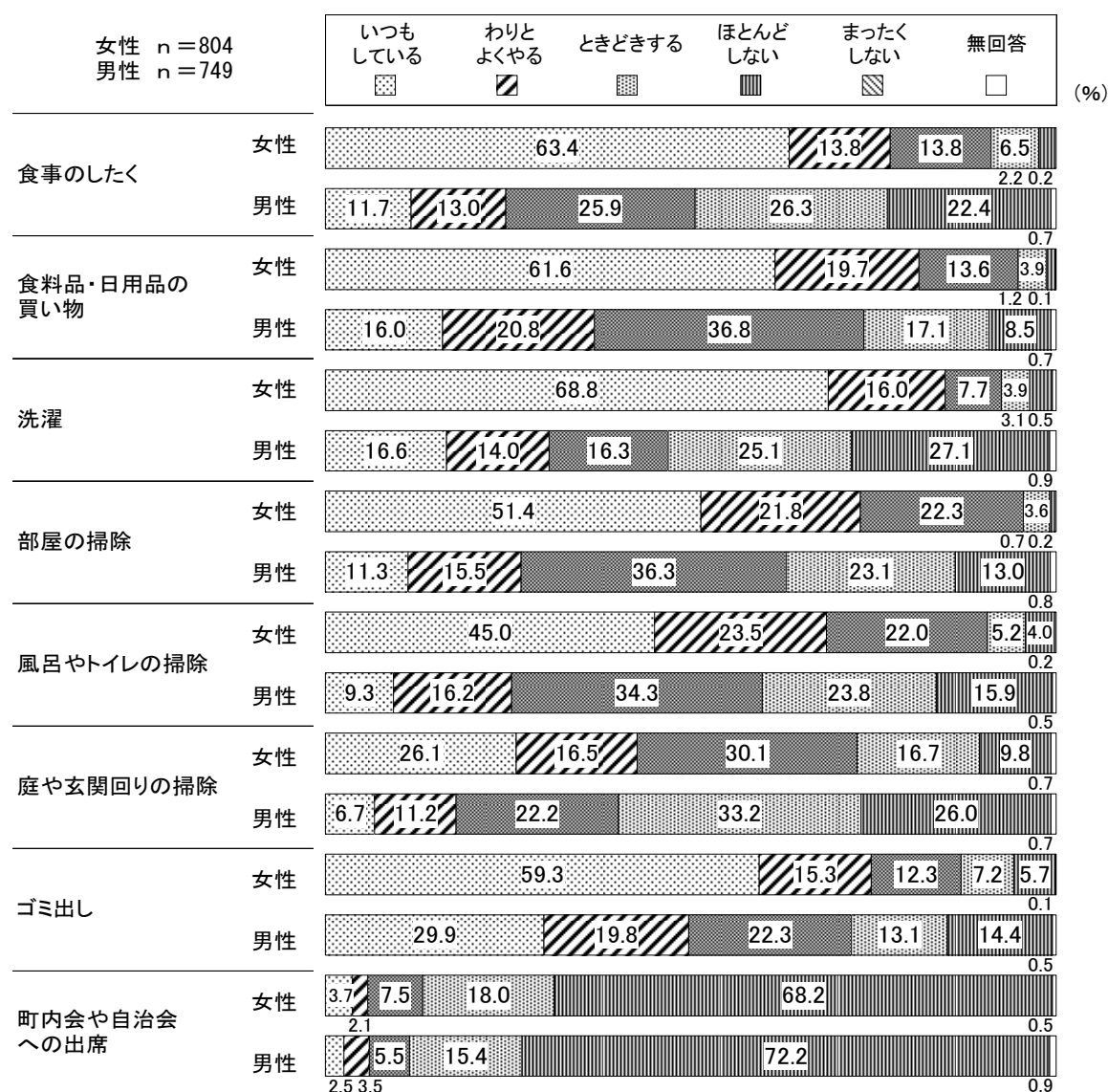
第1章 家庭生活と家族観

1-1 家事の実施状況

◎いつもしているのは圧倒的に既婚女性。

問1 あなたは、(ア)～(ク)にあげることをどの程度おこなっていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図1-1-1 家事の実施状況(性別-平成21年度)

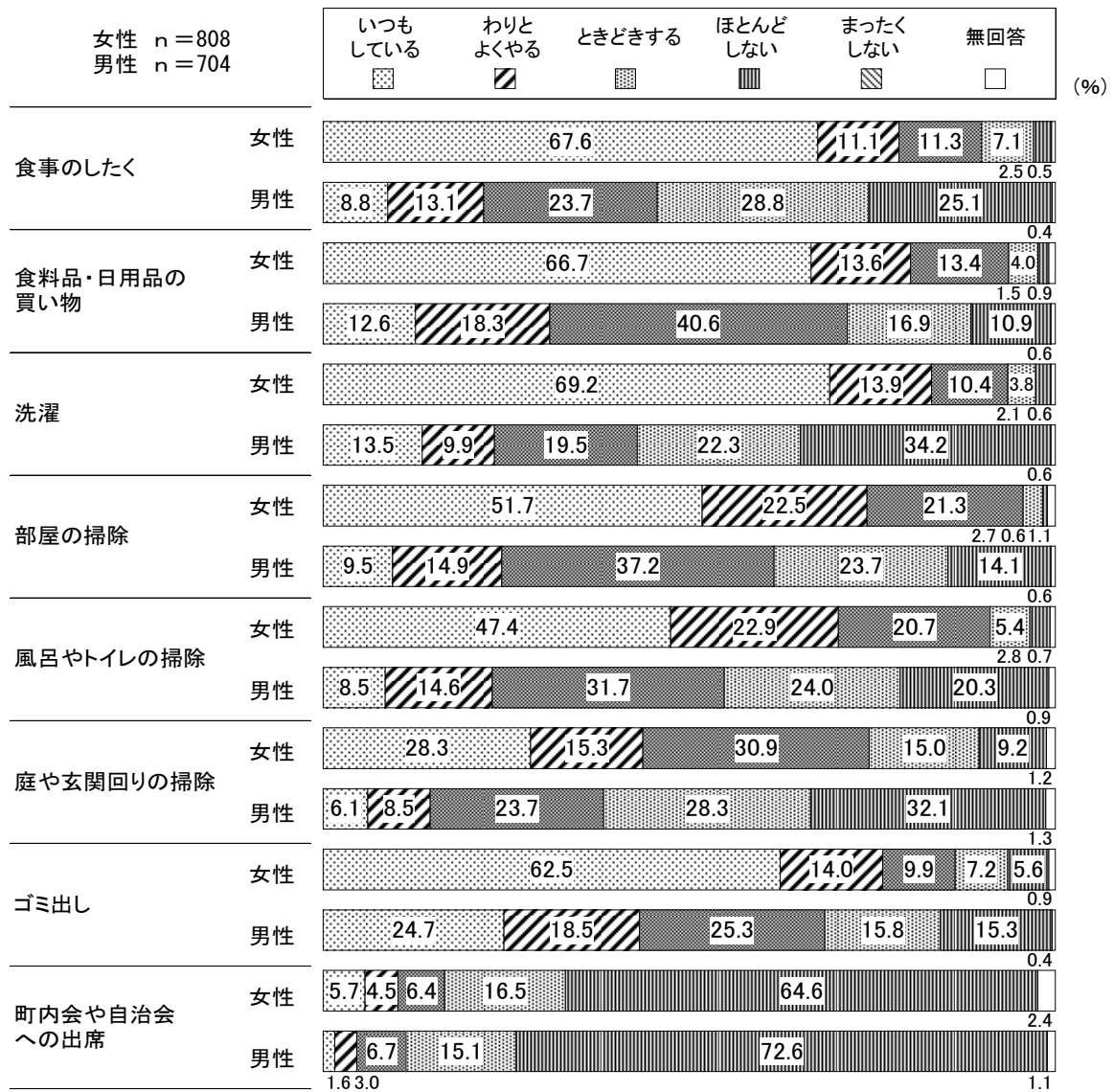


家庭における家事の役割分担の詳細をたずねた。

《食事のしたく》《買い物》《洗濯》《部屋の掃除》など、日常的な“家事”に関して「いつもしている」のは圧倒的に女性が男性を上回っている。

男性で比較的良好にしているものは《ゴミ出し》で、「いつもしている」が3割、「わりとよくやる」が2割となっている。この他では、「食料品・日用品の買い物」、「部屋の掃除」、「風呂やトイレの掃除」においては3割半ばとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 家事の実施状況（性別—平成 16 年度）



【過年度比較】

《ゴミ出し》では「いつもしている」が男性で平成 16 年度 24.7%が 29.9%と増加しているが、全体の傾向としては大きな違いはなく、日常的な“家事”に関して「いつもしている」のは圧倒的に女性が男性を上回っている状況に変わりはない。（図 1-1-2）

【結婚状況別】

日常の家事行動について、結婚状況および家族形態別にみると、女性では未婚で、家族と同居／未婚で、ひとり暮らし／既婚の順に家事行動の実施率は大幅に高まっている。

男性の値をみると、未婚のひとり暮らしでは家事全般に関して「いつもしている」や「わりとよくやる」の割合が高く、未婚ひとり暮らしの女性と比較しても遜色はない。これに対して、未婚で、家族と同居、既婚の行動率は明らかに低く、「他に誰かいるならば、自分はやらない」という姿勢が明瞭に現れている。

なお、「ゴミ出し」については既婚男性の行動率が高くなっており、既婚男性の役割がうかがえる。(表1-1-1)

表1-1-1 家事の実施状況（結婚状況別）

			(%)						
			n	いつもしている	わりとよくやる	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
食事のしたく	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	41.5	22.3	26.2	8.5	0.8	0.8
		未婚で、家族と同居	(180)	30.0	13.9	26.1	21.1	8.9	-
		既婚	(490)	81.4	11.6	6.1	0.6	0.2	-
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	34.9	19.1	25.0	13.8	7.2	-
		未婚で、家族と同居	(160)	6.9	7.5	26.3	27.5	31.3	0.6
		既婚	(434)	5.5	12.9	26.0	30.4	24.7	0.5
食料品・日用品の買い物	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	53.8	31.5	13.1	0.8	0.8	-
		未婚で、家族と同居	(180)	28.3	15.0	37.2	15.0	4.4	-
		既婚	(490)	75.7	18.4	5.1	0.6	0.2	-
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	47.4	21.7	27.0	3.3	0.7	-
		未婚で、家族と同居	(160)	10.6	16.3	26.3	26.3	19.4	1.3
		既婚	(434)	7.1	22.4	44.2	18.7	7.4	0.2
洗濯	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	63.1	26.9	9.2	-	0.8	-
		未婚で、家族と同居	(180)	34.4	16.7	21.7	13.9	13.3	-
		既婚	(490)	82.9	13.1	2.2	1.2	-	0.6
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	51.3	30.9	15.1	1.3	1.3	-
		未婚で、家族と同居	(160)	13.1	10.0	15.0	25.6	35.6	0.6
		既婚	(434)	5.8	9.7	17.1	33.4	33.2	0.9
部屋の掃除	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	43.1	27.7	25.4	3.1	0.8	-
		未婚で、家族と同居	(180)	25.0	23.9	40.6	7.8	2.8	-
		既婚	(490)	63.7	19.0	14.9	2.2	-	0.2
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	28.3	23.7	41.4	4.6	1.3	0.7
		未婚で、家族と同居	(160)	10.0	14.4	41.3	22.5	11.3	0.6
		既婚	(434)	6.0	13.1	32.9	30.0	17.5	0.5
風呂やトイレの掃除	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	36.2	28.5	29.2	3.8	2.3	-
		未婚で、家族と同居	(180)	21.1	15.0	30.6	17.8	15.6	-
		既婚	(490)	56.3	25.1	17.1	1.0	0.2	0.2
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	26.3	19.1	39.5	12.5	2.6	-
		未婚で、家族と同居	(160)	4.4	16.3	23.8	26.9	28.1	0.6
		既婚	(434)	5.3	15.2	36.6	26.5	16.1	0.2
庭や玄関回りの掃除	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	20.8	12.3	33.8	23.8	8.5	0.8
		未婚で、家族と同居	(180)	11.1	8.9	23.3	26.7	30.0	-
		既婚	(490)	33.1	20.4	31.6	11.2	2.9	0.8
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	17.8	13.2	26.3	32.9	9.9	-
		未婚で、家族と同居	(160)	1.9	7.5	15.0	33.1	41.9	0.6
		既婚	(434)	4.6	12.0	23.5	33.6	25.8	0.5
ゴミ出し	女性	未婚で、ひとり暮らし	(130)	70.0	23.1	3.1	2.3	1.5	-
		未婚で、家族と同居	(180)	31.1	11.7	20.6	17.8	18.9	-
		既婚	(490)	66.7	14.7	11.8	4.7	2.0	-
	男性	未婚で、ひとり暮らし	(152)	61.8	24.3	10.5	1.3	2.0	-
		未婚で、家族と同居	(160)	16.9	8.8	26.3	20.0	27.5	0.6
		既婚	(434)	23.7	22.1	25.1	14.7	14.1	0.2

【共働き状況別】

共働きでも片方だけ働いていても、「いつもしている」「わりとよくやる」と回答しているのは女性であり、家事の実施状況に違いはみられない。共働きであっても家事は女性が分担しているのが現状といえよう。その中では、共働きの男性は、片方だけ働いている男性よりも《食事のしたく》《買い物》や《洗濯》などを「わりとよくやる」という回答が多くなっており、何らかの協力はしているという状況もみてとれる。(表1-1-2)

表1-1-2 家事の実施状況（共働き状況別）

			n	いつもしている	わりとよくやる	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
食事のしたく	女性	共働き	(230)	72.2	18.7	8.3	0.4	0.4	-
		片方のみ	(238)	89.9	5.0	4.6	0.4	-	-
	男性	共働き	(197)	6.6	18.8	27.4	23.9	23.4	-
		片方のみ	(223)	3.6	8.5	25.6	36.8	24.7	0.9
食料品・日用品の買い物	女性	共働き	(230)	71.3	21.7	6.1	0.4	0.4	-
		片方のみ	(238)	80.7	14.7	4.2	0.4	-	-
	男性	共働き	(197)	9.6	21.8	46.7	13.7	8.1	-
		片方のみ	(223)	4.5	23.8	43.0	22.4	5.8	0.4
洗濯	女性	共働き	(230)	77.4	17.0	2.6	2.6	-	0.4
		片方のみ	(238)	89.1	8.4	2.1	-	-	0.4
	男性	共働き	(197)	9.1	14.2	17.3	29.4	29.4	0.5
		片方のみ	(223)	3.1	4.9	17.9	37.2	35.4	1.3
部屋の掃除	女性	共働き	(230)	54.8	22.2	18.7	3.9	-	0.4
		片方のみ	(238)	73.1	14.7	11.3	0.8	-	-
	男性	共働き	(197)	8.1	15.7	31.5	26.4	17.8	0.5
		片方のみ	(223)	4.0	10.8	35.4	33.2	16.1	0.4
風呂やトイレの掃除	女性	共働き	(230)	47.8	28.7	20.9	1.7	0.4	0.4
		片方のみ	(238)	64.3	21.4	13.9	0.4	-	-
	男性	共働き	(197)	6.6	20.8	35.5	21.8	15.2	-
		片方のみ	(223)	4.5	9.9	38.1	30.5	16.6	0.4
庭や玄関回りの掃除	女性	共働き	(230)	24.3	20.4	36.5	13.9	3.5	1.3
		片方のみ	(238)	39.5	19.7	28.6	9.2	2.5	0.4
	男性	共働き	(197)	5.1	12.2	21.8	35.0	25.9	-
		片方のみ	(223)	3.6	11.7	25.6	34.1	24.2	0.9
ゴミ出し	女性	共働き	(230)	60.4	16.5	13.9	7.0	2.2	-
		片方のみ	(238)	73.5	11.8	10.5	2.1	2.1	-
	男性	共働き	(197)	29.4	23.4	21.3	12.2	13.7	-
		片方のみ	(223)	18.8	21.5	29.1	16.1	13.9	0.4

【性別役割分担意識別】

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して「そう思う」「そう思わない」という性別役割分担意識別にみたものが表1-1-3である。

男性の状況を見ると、《食事のしたく》《買い物》《洗濯》などを、「いつもしている」と回答しているのは性別役割分担肯定派よりも否定派が多く、意識の違いが行動を伴ったものとなっている。しかしながら、男性の性別役割分担否定派においても“家事”を「いつもしている」という割合は依然として1割程度にとどまっていることから、性別役割分担の意識が日常的な行動と結びついた態度にまではいたっていないことがわかる。

また、女性では性別役割分担意識との関連は明確でなく、いずれも「いつもしている」の回答が多い。(表1-1-3)

表1-1-3 家事の実施状況（性別役割分担意識別）

			(%)						
			n	いつもしている	わりとよくやる	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
食事のしたく	女性	そう思う	(39)	74.4	10.3	7.7	5.1	2.6	-
		そう思わない	(322)	63.4	13.0	15.5	6.5	1.6	-
	男性	そう思う	(68)	14.7	7.4	23.5	19.1	35.3	-
		そう思わない	(238)	13.9	17.6	27.7	19.3	20.2	1.3
食料品・日用品の買い物	女性	そう思う	(39)	69.2	20.5	5.1	2.6	2.6	-
		そう思わない	(322)	63.0	18.3	14.6	2.2	1.9	-
	男性	そう思う	(68)	14.7	10.3	50.0	11.8	13.2	-
		そう思わない	(238)	22.3	23.1	29.4	16.8	7.6	0.8
洗濯	女性	そう思う	(39)	71.8	15.4	5.1	2.6	5.1	-
		そう思わない	(322)	68.3	16.1	8.1	2.8	4.3	0.3
	男性	そう思う	(68)	13.2	14.7	17.6	11.8	42.6	-
		そう思わない	(238)	23.1	13.9	16.8	20.6	23.5	2.1
部屋の掃除	女性	そう思う	(39)	64.1	7.7	23.1	2.6	2.6	-
		そう思わない	(322)	50.9	21.4	22.7	4.0	0.9	-
	男性	そう思う	(68)	4.4	10.3	32.4	26.5	26.5	-
		そう思わない	(238)	18.9	17.6	30.7	19.7	12.2	0.8
風呂やトイレの掃除	女性	そう思う	(39)	61.5	15.4	15.4	2.6	5.1	-
		そう思わない	(322)	45.7	22.0	22.0	5.0	5.3	-
	男性	そう思う	(68)	2.9	11.8	39.7	20.6	25.0	-
		そう思わない	(238)	13.9	18.9	30.3	20.6	15.5	0.8
庭や玄関回りの掃除	女性	そう思う	(39)	38.5	12.8	15.4	15.4	17.9	-
		そう思わない	(322)	24.8	16.5	30.1	16.5	11.8	0.3
	男性	そう思う	(68)	2.9	13.2	20.6	27.9	35.3	-
		そう思わない	(238)	10.5	12.6	23.1	29.4	23.5	0.8
ゴミ出し	女性	そう思う	(39)	69.2	10.3	10.3	2.6	7.7	-
		そう思わない	(322)	59.0	13.7	11.8	9.3	6.2	-
	男性	そう思う	(68)	22.1	14.7	19.1	16.2	27.9	-
		そう思わない	(238)	39.1	18.1	18.5	9.7	13.9	0.8
町内会や自治会への出席	女性	そう思う	(39)	-	2.6	5.1	17.9	74.4	-
		そう思わない	(322)	3.7	1.6	7.8	13.7	72.7	0.6
	男性	そう思う	(68)	4.4	1.5	5.9	14.7	73.5	-
		そう思わない	(238)	2.1	3.4	5.5	16.0	71.4	1.7

1-2 労働や家事・育児・介護にかかる時間

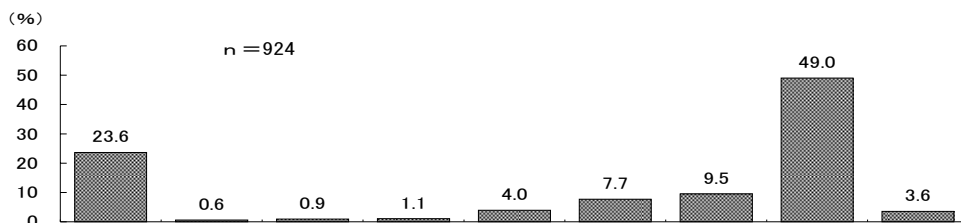
◎就労状況にかかわらず、家事等に従事する時間は大きく女性に偏っている。

(既婚(事実婚を含む)の方のみ回答)

問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。

図1-2-1 労働や家事・育児・介護にかかる時間
【収入の得られる労働】(全体)

【平成21年度全体】



【平成16年度全体】

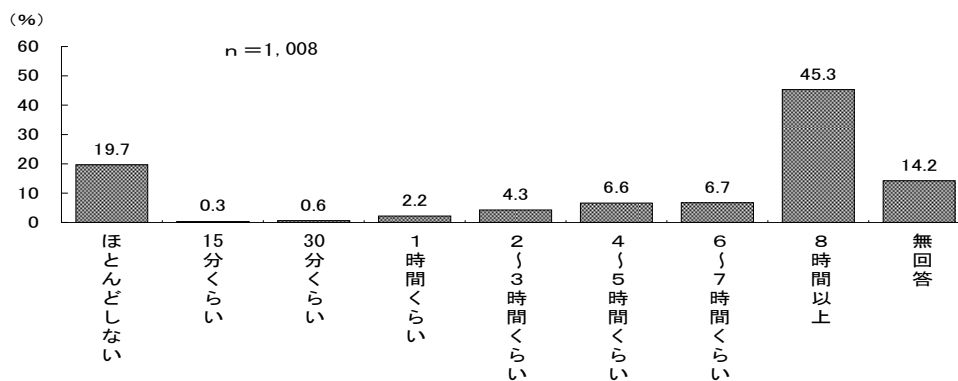
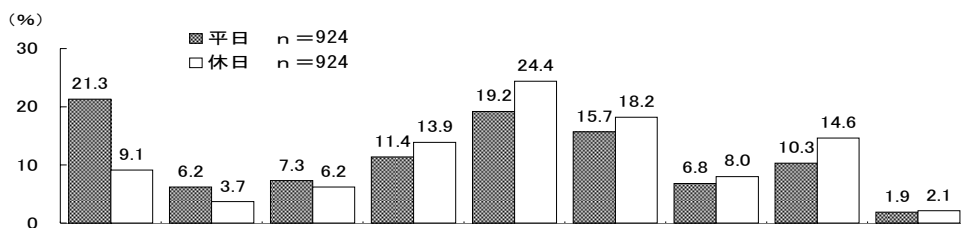


図1-2-2 労働や家事・育児・介護にかかる時間
【家庭内の家事・育児・介護など】(全体)

【平成21年度全体】



【平成16年度全体】

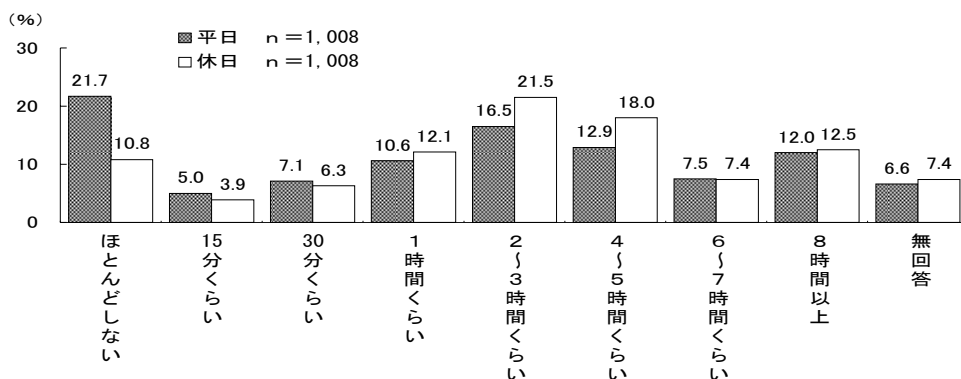
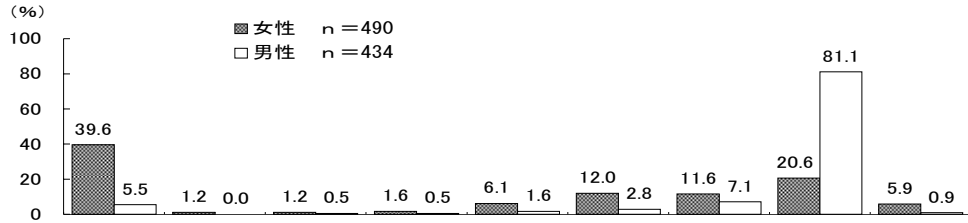


図1-2-3 労働や家事・育児・介護にかかる時間
【収入の得られる労働】(性別)

【平成21年度性別】



【平成16年度性別】

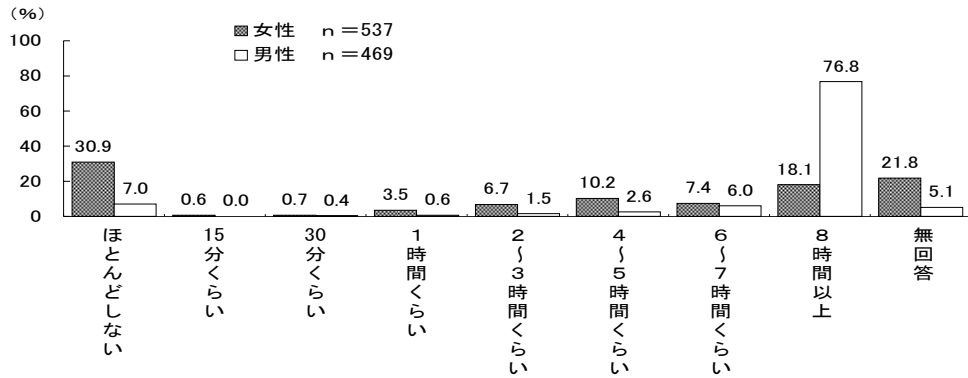
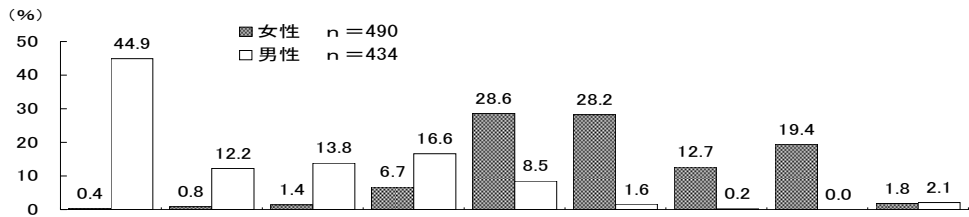


図1-2-4 労働や家事・育児・介護にかかる時間
【平日の家庭内の家事・育児・介護など】(性別)

【平成21年度性別】



【平成16年度性別】

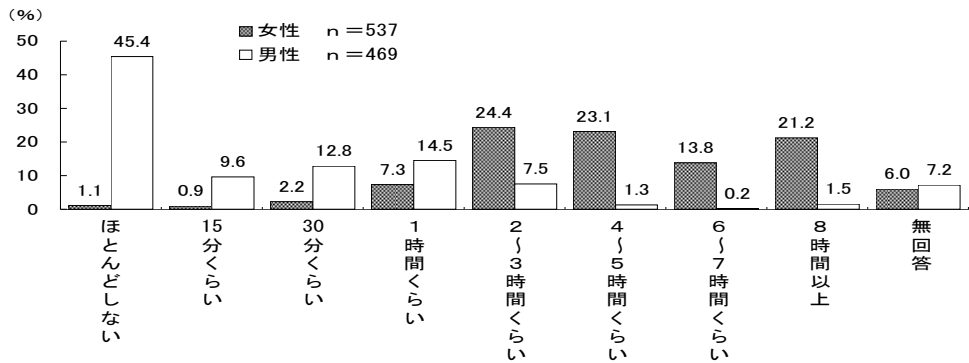
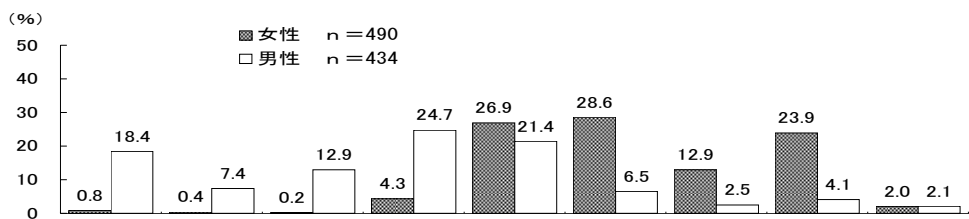
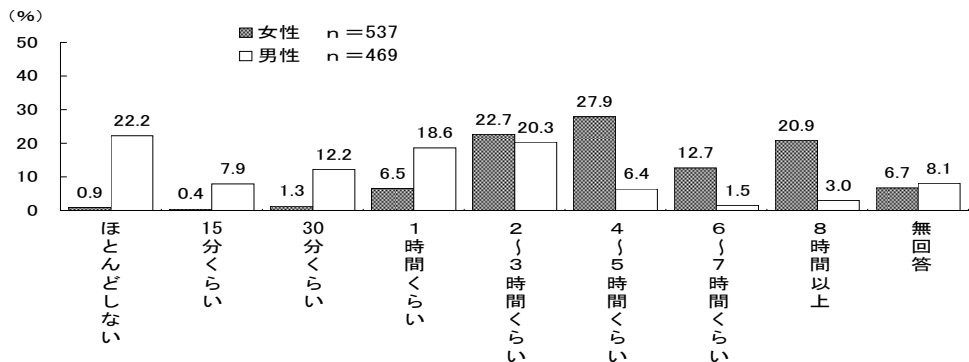


図1-2-5 労働や家事・育児・介護にかかる時間
【休日の家庭内の家事・育児・介護など】(性別)

【平成21年度性別】



【平成16年度性別】



(1) 収入の得られる労働

女性では「ほとんどしない」(39.6%)、男性では「8時間以上」(81.1%)が最も多くなっている。(図1-2-3)

【過年度比較】

女性では「ほとんどしない」が平成16年度30.9%から39.6%と増加している。一方、男性では「8時間以上」が平成16年度76.8%から81.1%と増加している。(図1-2-3)

【就労状況別】

就労状況別にみると、男女共に《常勤の勤め人》では「8時間以上」が圧倒的に多く、女性では78.0%、男性では94.3%を占めている。女性の《パート・派遣社員》では「4～5時間くらい」(31.9%)と「6～7時間くらい」(28.1%)に二分している。(表1-2-1)

表1-2-1 収入の得られる労働（就労状況別）

			(%)								
		n	ほとんど しない	15分 くらい	30分 くらい	1時間 くらい	2 ～ 3 時間 くらい	4 ～ 5 時間 くらい	6 ～ 7 時間 くらい	8 時間 以上	無 回 答
女性	自営・自由業	(50)	6.0	4.0	2.0	4.0	18.0	24.0	12.0	26.0	4.0
	常勤の勤め人	(82)	2.4	-	-	1.2	-	2.4	15.9	78.0	-
	パート・派遣社員	(135)	3.0	-	3.7	3.0	12.6	31.9	28.1	15.6	2.2
	家事専業	(193)	85.5	1.6	-	0.5	1.6	1.0	-	1.0	8.8
	無職・学生	(22)	77.3	4.5	-	-	4.5	-	-	-	13.6
男性	自営・自由業	(107)	1.9	-	0.9	-	3.7	5.6	13.1	73.8	0.9
	常勤の勤め人	(283)	0.4	-	-	-	-	0.4	4.2	94.3	0.7
	パート・派遣社員	(15)	-	-	-	6.7	20.0	26.7	26.7	13.3	6.7
	家事専業	(1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	無職・学生	(23)	91.3	-	4.3	4.3	-	-	-	-	-
女性	共働き	(230)	1.7	0.9	1.3	2.6	7.8	21.7	22.6	39.6	1.7
男性	共働き	(197)	1.5	-	0.5	-	2.0	3.0	10.7	82.2	-

(2) 家庭内の家事・育児・介護など

【平日】

女性では「2～3時間くらい」が28.6%、「4～5時間くらい」が28.2%、また「8時間以上」も19.4%となり、2時間以上が8割以上を占めている。一方、男性では「ほとんどしない」が44.9%と多数を占め、2時間未満が8割以上を占める結果となっている。(図1-2-4)

【休日】

女性では「4～5時間くらい」(28.6%)が最も多く、平日と同様の傾向である。一方、男性では「ほとんどしない」が平日の44.9%から18.4%へと大幅に減少し、「1時間くらい」が24.7%となっている。依然として2時間未満が6割をしめるものの、2時間以上も3割を占めており、平日とは異なる生活時間となっている。(図1-2-5)

【過年度比較】

平日では同様の傾向ではあるが、休日においては男性で「ほとんどしない」が平成16年度22.2%から18.4%と減少し、「1時間くらい」が平成16年度18.6%から24.7%と増加しており、休日における男性の家事・育児・介護への参加がみられるものの、家事等に從事する時間が大きく女性に偏っている状況に変わりはない。(図1-2-4、図1-2-5)

【就労状況別】

【平日】

表1-2-2から《家事専業》の状況を見ると、「8時間以上」(31.6%)と「4～5時間くらい」(31.1%)の2つが多い。

女性就業者をみると、《自営業・自由業》では「4～5時間くらい」(32.0%)と「2～3時間くらい」(30.0%)、《常勤の勤め人》では「2～3時間くらい」(45.1%)と「1時間くらい」(17.1%)、《パート・派遣社員》では「2～3時間くらい」(34.1%)と「4～5時間くらい」が多くなっている。専業主婦の時間帯よりは少ないものの、いずれにおいてもおおむね「2～3時間くらい」を中心に家庭内の仕事をこなしていることがわかる。

一方、男性の状況を見ると、《常勤の勤め人》では「ほとんどしない」が50.9%、《自営・自由業》では40.2%と、家事等を担っているのは女性であるという現状が改めて示されている。

(表1-2-2)

表1-2-2 家庭内の家事・育児・介護など【平日】(就労状況別)

			ほとんどしない	15分くらい	30分くらい	1時間くらい	2～3時間くらい	4～5時間くらい	6～7時間くらい	8時間以上	無回答
		n									
女性	自営・自由業	(50)	2.0	-	-	6.0	30.0	32.0	12.0	12.0	6.0
	常勤の勤め人	(82)	1.2	2.4	7.3	17.1	45.1	15.9	4.9	4.9	1.2
	パート・派遣社員	(135)	-	-	-	8.9	34.1	30.4	11.9	13.3	1.5
	家事専業	(193)	-	-	0.5	0.5	17.1	31.1	17.6	31.6	1.6
	無職・学生	(22)	-	9.1	-	9.1	36.4	31.8	9.1	4.5	-
男性	自営・自由業	(107)	40.2	10.3	15.9	16.8	13.1	1.9	-	-	1.9
	常勤の勤め人	(283)	50.9	11.7	12.7	16.6	6.0	0.7	-	-	1.4
	パート・派遣社員	(15)	13.3	20.0	20.0	13.3	6.7	6.7	6.7	-	13.3
	家事専業	(1)	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	無職・学生	(23)	21.7	17.4	13.0	17.4	21.7	8.7	-	-	-
女性	共働き	(230)	0.9	0.4	2.6	11.3	37.8	23.9	10.0	10.4	2.6
	片方のみ	(238)	-	1.3	0.4	2.5	19.3	30.7	15.1	29.4	1.3
男性	共働き	(197)	39.1	11.7	15.2	19.3	11.2	1.5	-	-	2.0
	片方のみ	(223)	51.1	12.6	12.6	14.3	5.8	1.8	0.4	-	1.3

【就労状況別】

【休日】

表1-2-3から休日の状況をみると、《家事専業》では「2～3時間くらい」から「8時間以上」まで広く分布しつつも、平日で31.6%の「8時間以上」が29.5%へ減少するなど、平日よりも従事する時間が少なくなっている。

女性就業者をみると、《自営業・自由業》では「2～3時間くらい」が多い。《常勤の勤め人》および《パート・派遣社員》では「4～5時間くらい」が多い。

一方男性就労者では、「ほとんどしない」が平日に比べて大幅に減少し、特に《常勤の勤め人》では「1時間くらい」から「2～3時間くらい」が2割台となっている。

なお、女性の《常勤の勤め人》では「4～5時間くらい」が36.6%へ（平日15.9%）、「8時間以上」が20.7%へ（平日4.9%）増加している部分もある。家事専業者の稼働時間が平日に比べて減少傾向を示しているのに対して、就労女性で逆に増加傾向が見られることは、家事の負担が休日にまで影響していること示しており、さらにはパートナーである男性の休日家事時間の増加の不十分さを暗示しているといえよう。（表1-2-3）

表1-2-3 家庭内の家事・育児・介護など【休日】（就労状況別）

			(%)								
		n	ほとんど しない	15分 くらい	30分 くらい	1時間 くらい	2 ～ 3 時間 くらい	4 ～ 5 時間 くらい	6 ～ 7 時間 くらい	8 時間 以上	無 回 答
女性	自営・自由業	(50)	2.0	-	-	2.0	40.0	24.0	8.0	18.0	6.0
	常勤の勤め人	(82)	-	-	-	9.8	22.0	36.6	9.8	20.7	1.2
	パート・派遣社員	(135)	0.7	-	-	2.2	27.4	31.1	16.3	20.7	1.5
	家事専業	(193)	1.0	-	0.5	3.1	22.3	27.5	14.0	29.5	2.1
	無職・学生	(22)	-	9.1	-	13.6	50.0	13.6	4.5	9.1	-
男性	自営・自由業	(107)	24.3	3.7	15.9	24.3	19.6	5.6	1.9	2.8	1.9
	常勤の勤め人	(283)	15.9	8.1	12.0	24.0	23.3	7.1	2.8	5.3	1.4
	パート・派遣社員	(15)	20.0	6.7	6.7	46.7	6.7	6.7	-	-	6.7
	家事専業	(1)	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	無職・学生	(23)	21.7	17.4	8.7	26.1	17.4	4.3	-	-	4.3
女性	共働き	(230)	0.9	-	-	4.8	27.8	30.0	12.6	21.3	2.6
	片方のみ	(238)	0.8	0.8	0.4	3.8	24.4	26.9	13.0	28.2	1.7
男性	共働き	(197)	20.8	4.1	13.2	24.4	20.8	7.1	3.6	4.1	2.0
	片方のみ	(223)	15.2	9.9	13.0	25.1	22.4	6.3	1.8	4.5	1.8

【末子の成長段階別】

【休日】

また、表1-2-4は休日の家事育児等にかかる時間を末子の成長段階別にみたものである。女性では、家事等を4時間以上行っているのは、小学校入学前の児童がいる場合では92.7%と9割を超えている。小学生・中学生でも7割以上で推移し、末子が社会人になって初めて5割台となっている。

一方、男性の家事等4時間以上をみると、小学校入学前の児童がいる場合のみ約4割となっているものの、小学生以降はすべて1割前後へと顕著に減少している。この傾向は子どもが社会人として自立するまで大きな減少が見られない女性の家事・育児時間と大きく異なっており、家庭のことは女性という現実が顕著に示された結果といえよう。(表1-2-4)

表1-2-4 家庭内の家事・育児・介護など【休日】(末子の成長段階別)

(%)

		n	ほとんどしない	15分くらい	30分くらい	1時間くらい	2〜3時間くらい	4〜5時間くらい	6〜7時間くらい	8時間以上	無回答
女性	小学校入学前	(96)	-	-	-	-	5.2	14.6	13.5	64.6	2.1
	小学生	(83)	-	-	-	-	27.7	31.3	13.3	27.7	-
	中学生	(25)	-	-	-	-	28.0	32.0	16.0	24.0	-
	高校生	(35)	-	-	-	5.7	20.0	42.9	14.3	14.3	2.9
	大学等	(39)	-	-	-	7.7	25.6	20.5	25.6	17.9	2.6
	社会人	(110)	0.9	0.9	-	4.5	40.0	31.8	11.8	8.2	1.8
男性	小学校入学前	(94)	3.2	2.1	4.3	13.8	35.1	17.0	7.4	17.0	-
	小学生	(59)	11.9	13.6	16.9	25.4	18.6	8.5	3.4	1.7	-
	中学生	(29)	20.7	13.8	17.2	27.6	13.8	3.4	3.4	-	-
	高校生	(27)	22.2	3.7	22.2	29.6	14.8	3.7	3.7	-	-
	大学等	(33)	30.3	9.1	12.1	33.3	15.2	-	-	-	-
社会人	(93)	31.2	8.6	15.1	25.8	12.9	3.2	-	-	3.2	

【参考 全国調査では】

平成18年度に行われた社会生活基本調査(総務省)によると、有配偶者の1日にかかる家事関連時間は女性では5時間3分、男性では43分となっている。直接に比較はできないが、今回の調査結果はこの全国の結果と非常によく似たものとなっている。(表1-2-5)

表1-2-5 週平均の1日の家事関連時間

	女性	男性
全体	3時間35分	38分
有配偶者	5時間3分	43分

家事関連時間…「家事」「育児」「介護」「買い物」

1-3 家族観・結婚観と男女の役割分担意識

◎「男は仕事、女は家庭」という考えには、女性の72.1%、男性の62.9%が否定的。

問3 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や出産、男女の役割などに対する考え方も多様化してきています。次にあげる考えについて、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-3-1 家族観・結婚観と男女の役割分担意識 (全体-平成21年度)

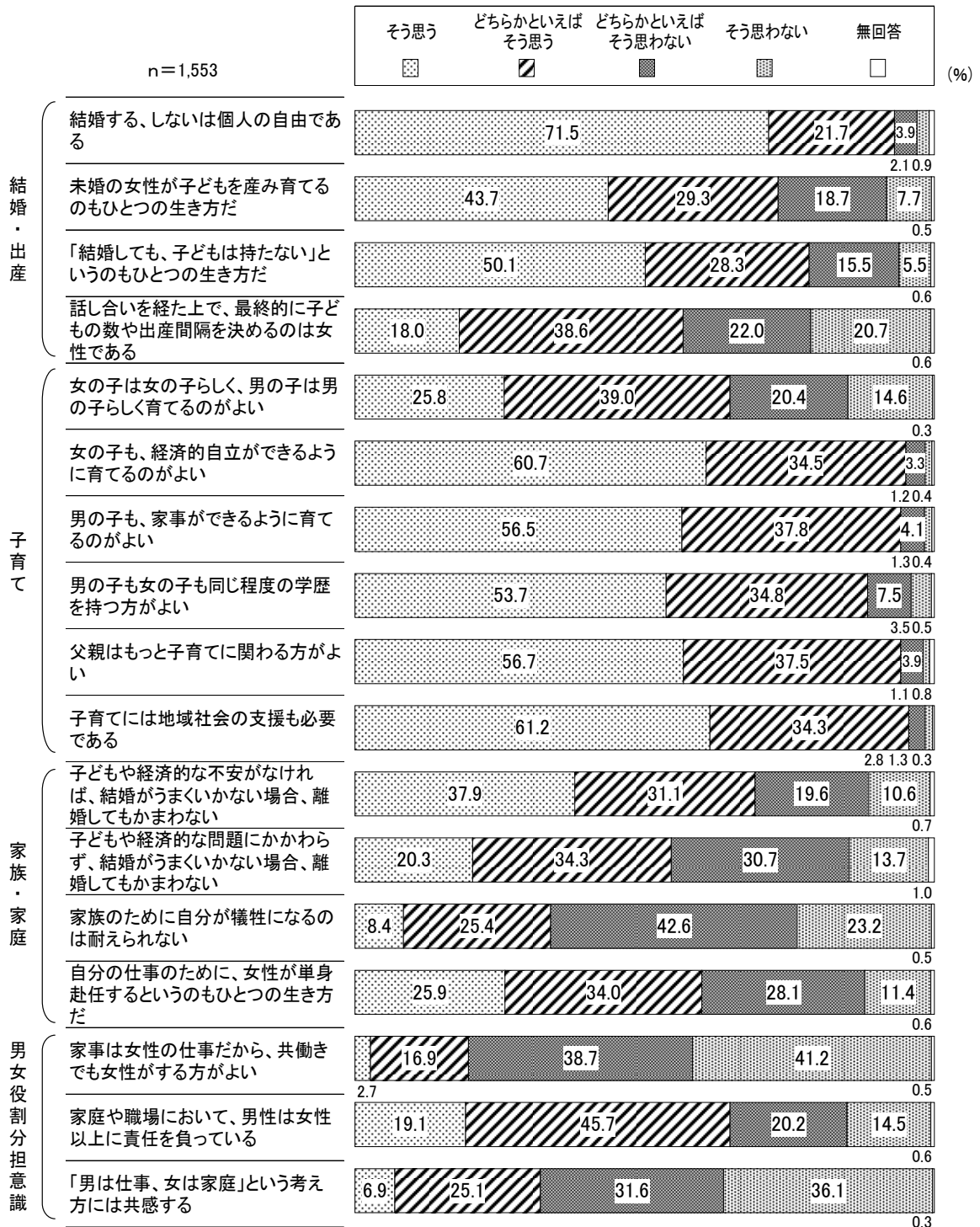
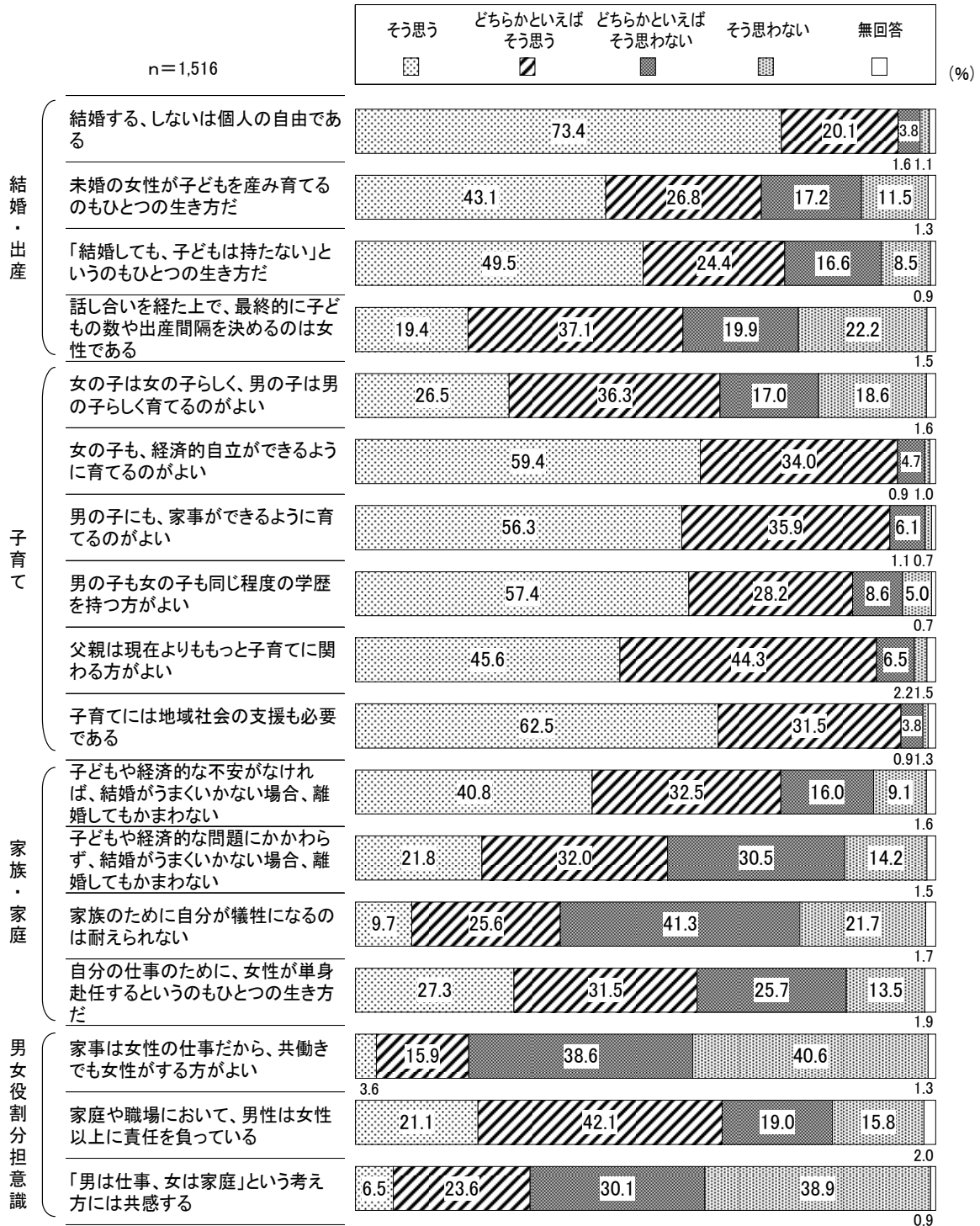


図 1-3-2 家族観・結婚観と男女の役割分担意識（全体—平成 16 年度）



価値観が多様化しているといわれる現在、家族・結婚・子育て・男女の役割分担に関する考え方もまた例外ではなく、従来とは違ったものが現れてきていると思われる。

ここでは、【結婚・出産】、【子育て】、【家族・家庭とのかかわり】、【男女役割分担意識】について具体的に17の考え方をあげ、それぞれについての賛否をたずねた。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた《肯定派》、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《否定派》について各分野の結果を整理すると、以下のような特徴がみられる。

【結婚・出産】

「結婚する、しないは個人の自由である」（肯定派 93.2%）を筆頭に、『結婚しても、子どもを持たない』というのもひとつの生き方だ」（同 78.4%）、「未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ」（同 73.0%）に関しては7割以上が《肯定派》となり、《否定派》を大きく上回っている。また、近年提唱されてきた「リプロダクティブ・ライツ」に関わる「話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である」においても《肯定派》が56.6%と半数を超え《否定派》を上回っている。

「家」意識を背景にした“伝統的”結婚・出産観は既に過去のものとなり、個人の意向を背景とした多様な結婚・出産観が主流となっている。（図1-3-1）

【子育て】

「女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい」（肯定派 95.2%）、「男の子も、家事ができるように育てるのがよい」（同 94.3%）、「男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい」（同 88.5%）などにおいては圧倒的に《肯定派》が多く、女の子・男の子といった区別は必要とされていない。しかしながら、「女（男）の子は女（男）らしく育てるのがよい」という「女（男）らしさ」については《肯定派》が64.8%と過半数を占めており、社会的な自立に強く結びつく経済力・家事能力・学歴に関するものとは別物として捉えられていると考えられる。

「子育てには地域社会の支援も必要である」（肯定派 95.5%）、「父親はもっと子育てに関わるほうがよい」（同 94.2%）のいずれも《肯定派》が圧倒的多数を占めている。都市化の進展、核家族化の進行、それにとまなう地域のつながりの希薄化などが、子育てにおいてもさまざまな問題を引き起こしている現在、国をあげて次世代育成支援に取り組んでいるところであるが、地域的支援や父親のかかわりの必要性は多くの人が認めている。

（図1-3-1）

【家族・家庭とのかかわり】

「子どもや経済的不安があれば、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は《肯定派》が69.0%と《否定派》(20.2%)を大きく上回っている。これに対し、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は《肯定派》が54.6%と半数を超えるものの《否定派》も44.4%を占め、「不安がなければ」に比べると意見が対立している。

「家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない」では《肯定派》33.8%に対して《否定派》は65.8%、「自分の仕事のために、女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ」では《肯定派》59.9%に対して《否定派》は39.5%となっており、【家族・家庭とのかかわり】に関しては、子育てや仕事などの様々な要因が絡み合う中で、家庭・家族を尊重しつつもそこに束縛されることや無理にとどまることに対しては否定的な考えを持つ人も多くなっているといえよう。(図1-3-1)

【男女役割分担意識】

「家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい」は《否定派》が79.9%と《肯定派》を大きく上回っている。『男は仕事、女は家庭』という考え方には共感するも《否定派》が67.7%と過半数を占めており、従来のな固定的男女役割分担に対しては否定的な見解が多数を占めている。

また、「家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている」については《肯定派》が64.8%となり《否定派》の34.7%を大きく上回る結果となった。(図1-3-1)

【過年度比較】

全体的にはほぼ同じ傾向となっているが、「父親はもっと子育てに関わる方がよい」では「そう思う」が平成16年度45.6%から56.7%と大きく増加しており、必要性がさらに求められている結果となった。(図1-3-2)

【属性別 結婚・出産】

【性別】

「結婚する、しないは個人の自由である」、「『結婚しても、子どもは持たない』というのもひとつの生き方だ」、「未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ」はいずれも性別による違いが少なく、男女共に《肯定派》が《否定派》を大きく上回っている。

「話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である」は、女性では《肯定派》62.3%、《否定派》は37.0%、男性では《肯定派》50.4%、《否定派》48.9%となっており、男女共に《肯定派》が半数以上を占めるが、男女の割合の違いも少なくない。

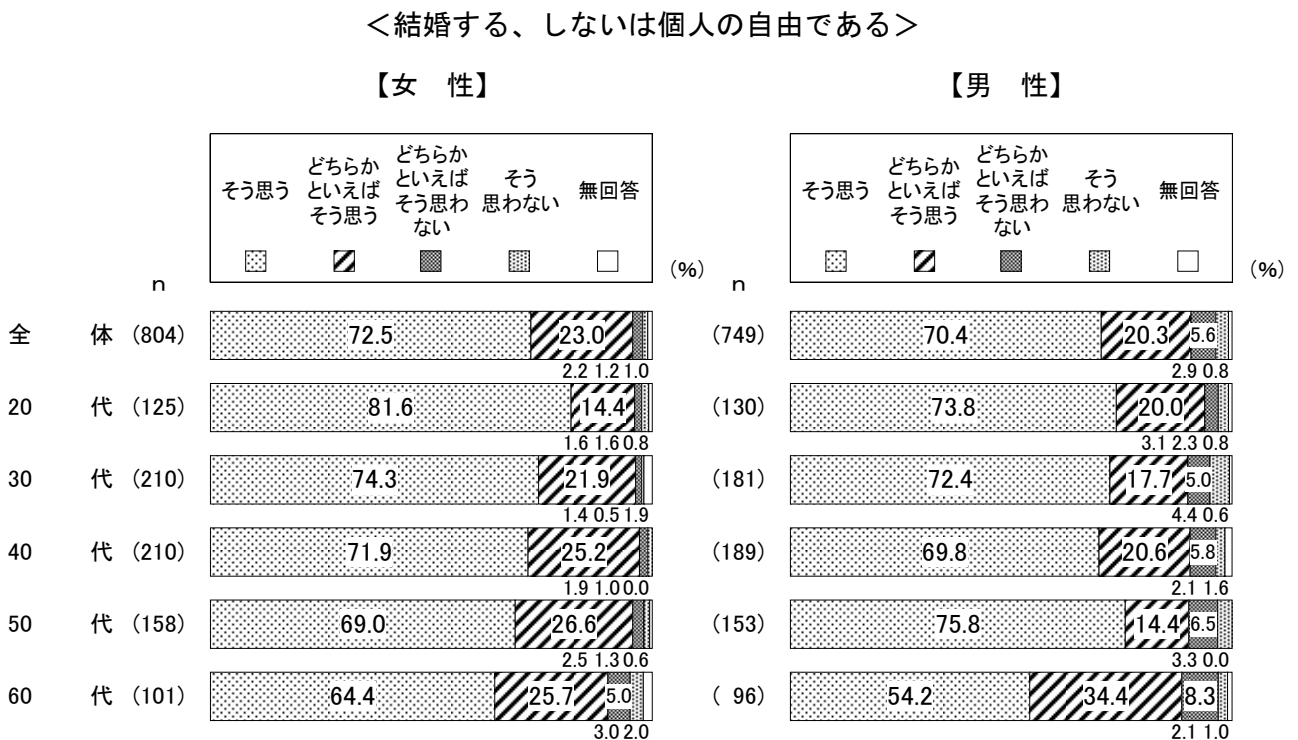
(図1-3-3)

【性・年代別】

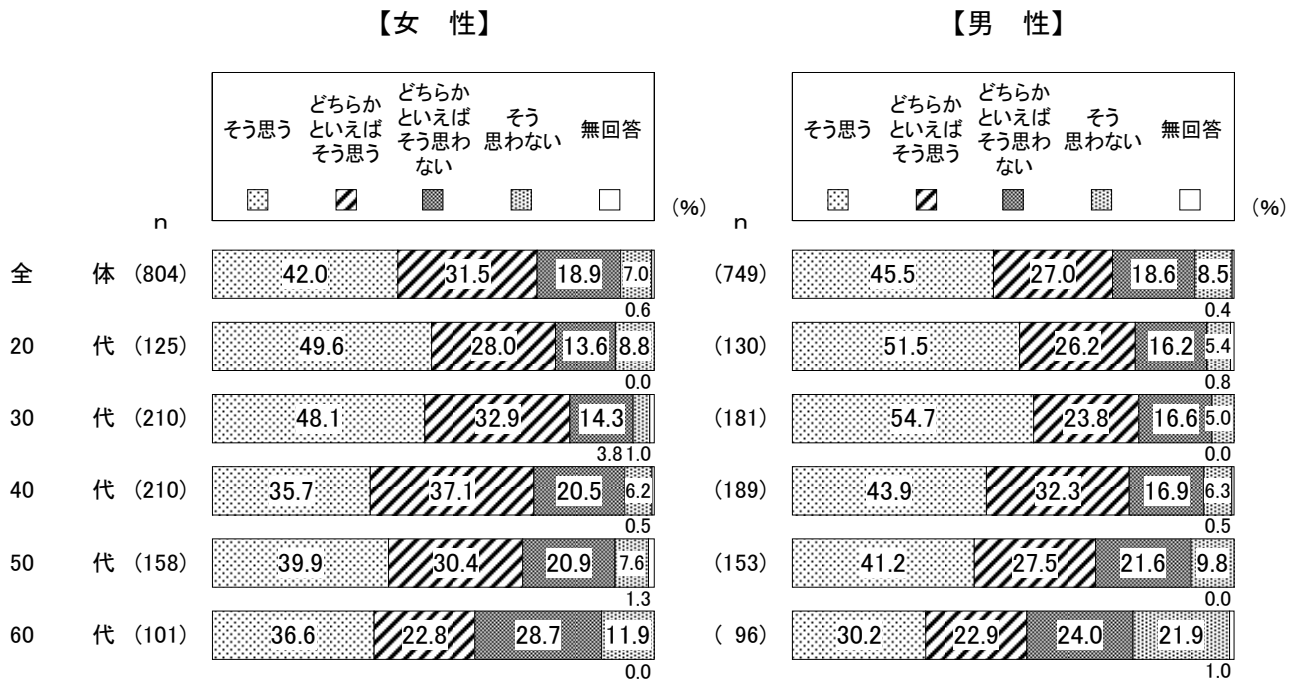
《肯定派》の割合に着目すると、「結婚する、しないは個人の自由である」、「『結婚しても、子どもは持たない』というのもひとつの生き方だ」、「未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ」はいずれの性・年代でも《肯定派》が比較的多数を占めており、世代を超えて定着した意見となっている。ただし、「そう思う」という積極的肯定派の割合は50代以降で顕著に減少し、若年層を中心とした強い支持がうかがえる。

「話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である」に関しては、女性20代では《肯定派》《否定派》が二分し、50代では《肯定派》が7割近くに達しているなど、女性の中でも見解が分かれている。男性では20代、40代、50代で《肯定派》が5割台とやや多くなっている。(図1-3-3)

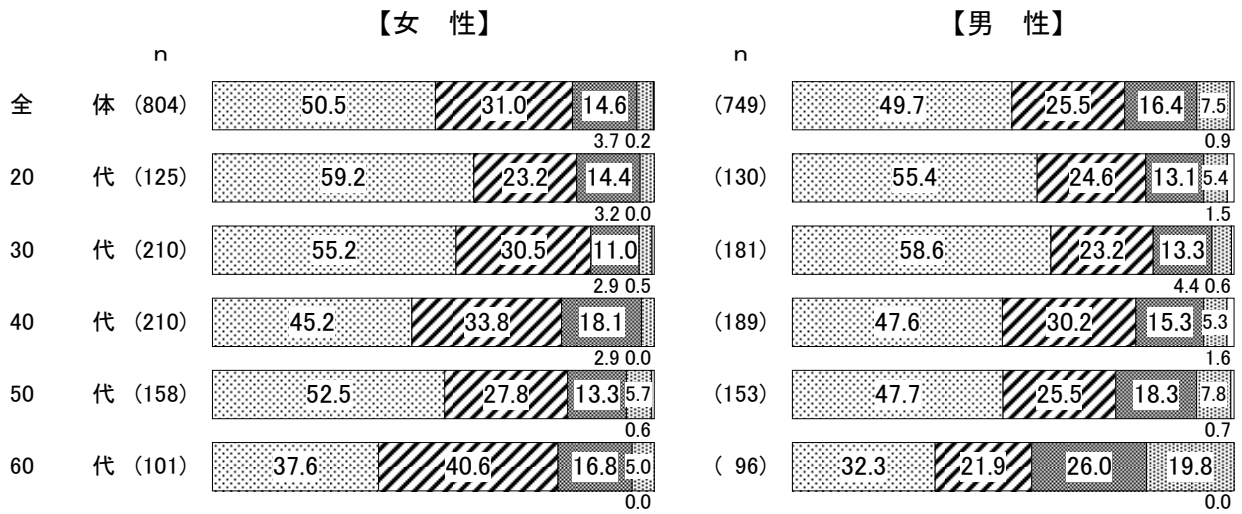
図1-3-3 家族観・結婚観と男女の役割分担意識【結婚・出産】(性・年代別)



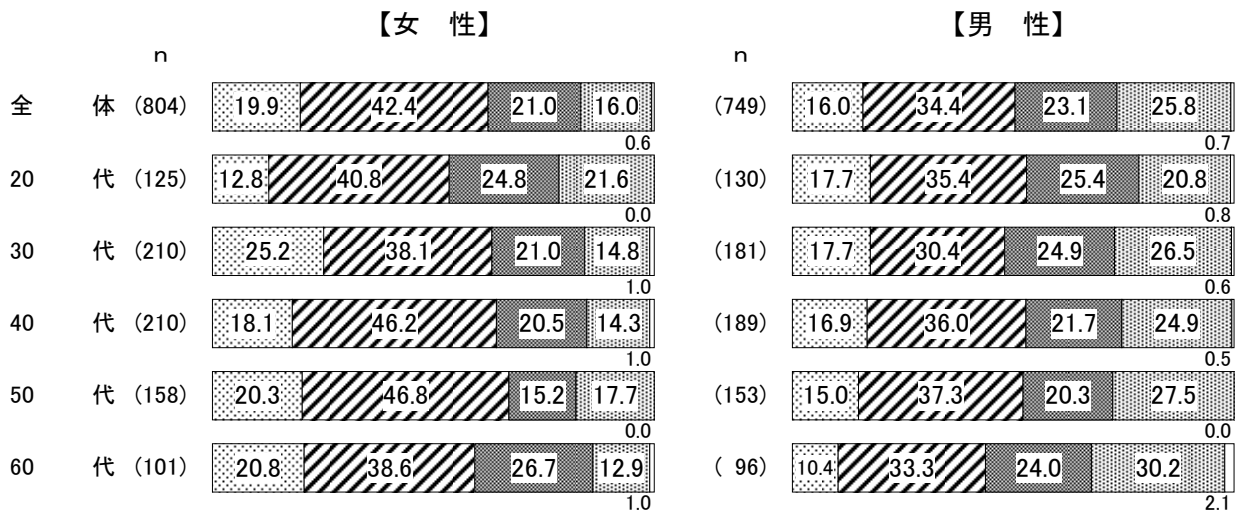
＜未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ＞



＜「結婚しても、子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ＞



＜話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である＞



【属性別 子育て】

【性別】

「女（男）の子は女（男）らしく育てるのがよい」は、女性の《肯定派》57.4%に対して男性では72.5%と約15ポイントもの開きが生じている。特に「そう思う」という積極的肯定派は女性の16.0%に対して男性では36.2%と大きく異なり、男性における「女（男）らしさ」の肯定が顕著である。

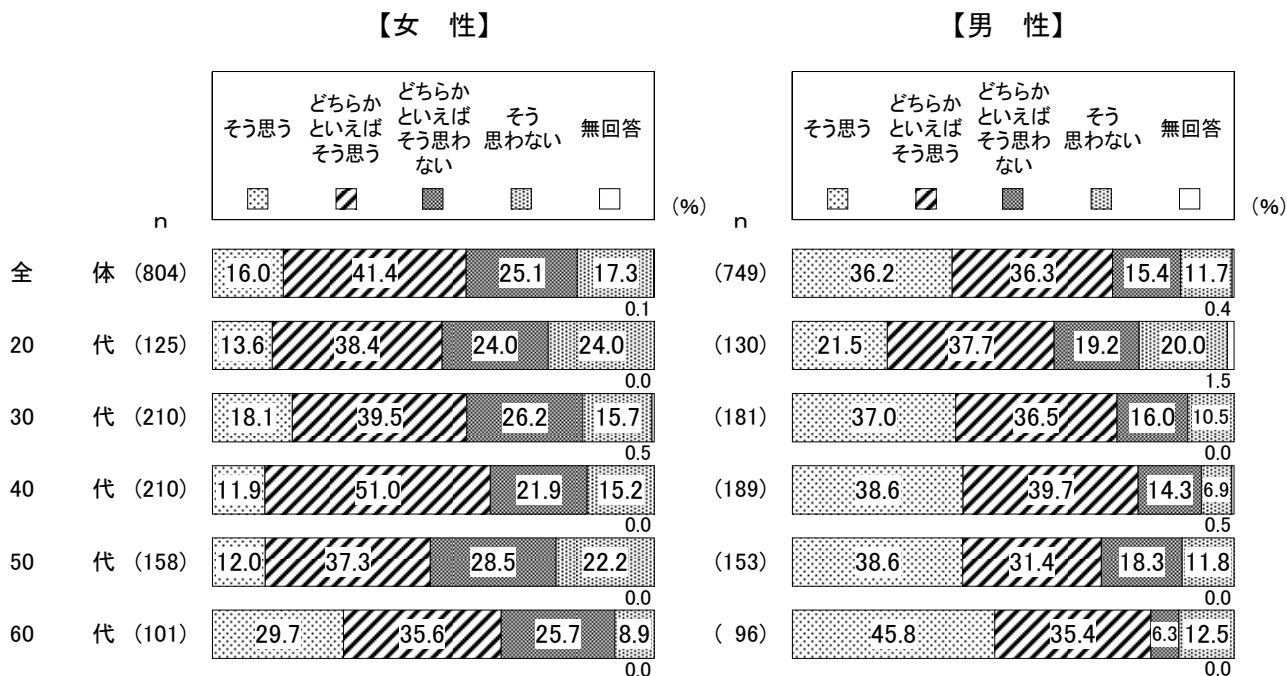
《肯定派》の割合に性別による大きな違いが現れているのは上記の「女（男）らしさ」についてのみであり、他の項目ではいずれも8割以上が《肯定派》となっている。ただし、「そう思う」という積極的肯定派は「女（男）らしさ」を除く全ての項目で女性の方が多く、より強く新しいスタイルを求める女性と、「女（男）らしさ」を強く肯定しつつも新しい意識を模索している男性という対比が浮かび上がっている。（図1-3-4）

【性・年代別】

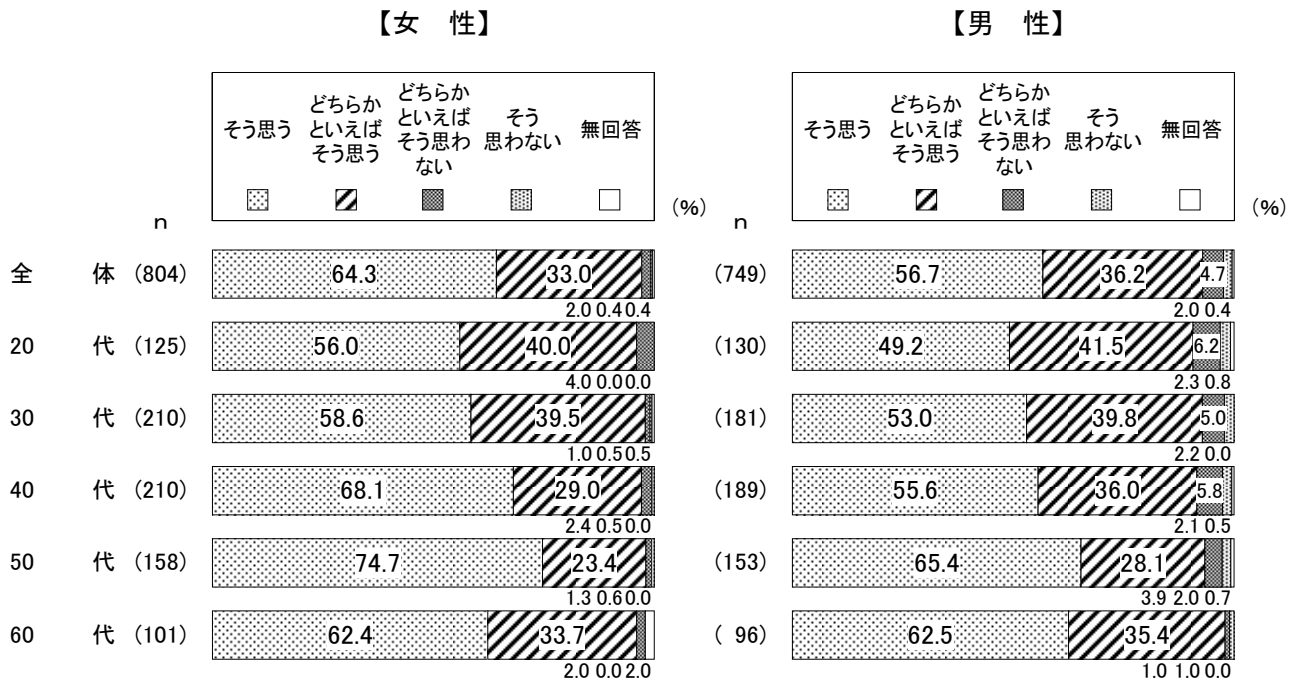
「父親はもっと子育てに関わる方がよい」と「子育てには地域社会の支援も必要である」で20代・30代から「そう思う」という積極的な肯定意見が特に多く、同性の他の年代と一線を画している。（図1-3-4）

図1-3-4 家族観・結婚観と男女の役割分担意識【子育て】（性・年代別）

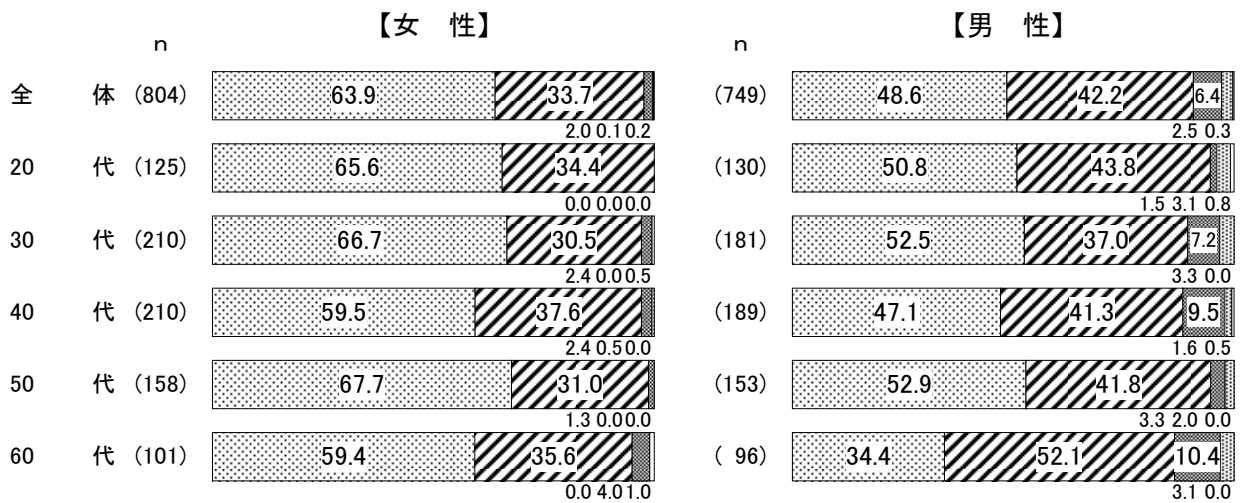
＜女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい＞



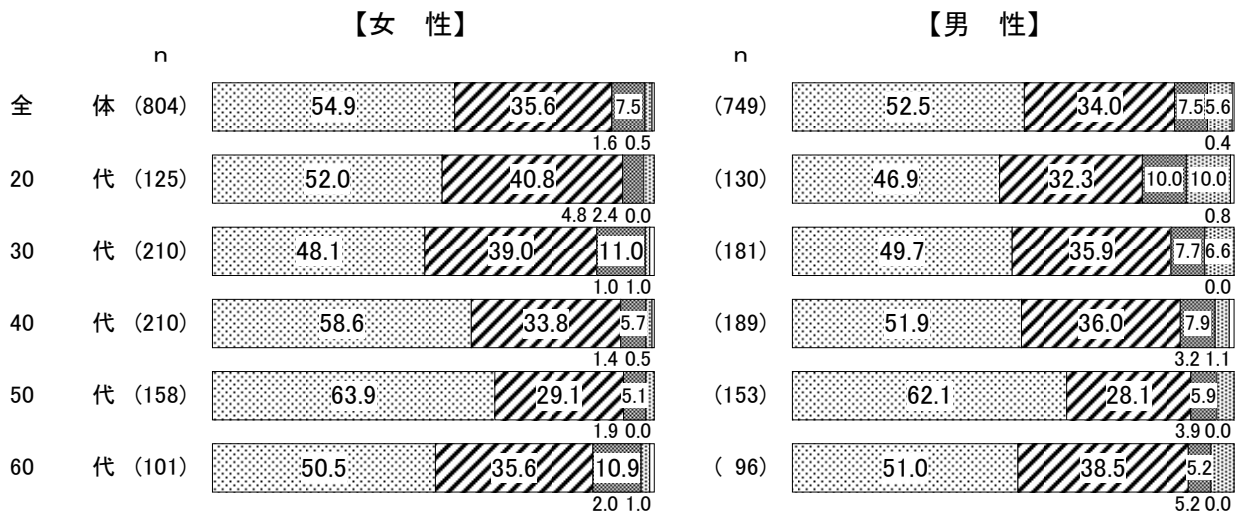
＜女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい＞



＜男の子も、家事ができるように育てるのがよい＞



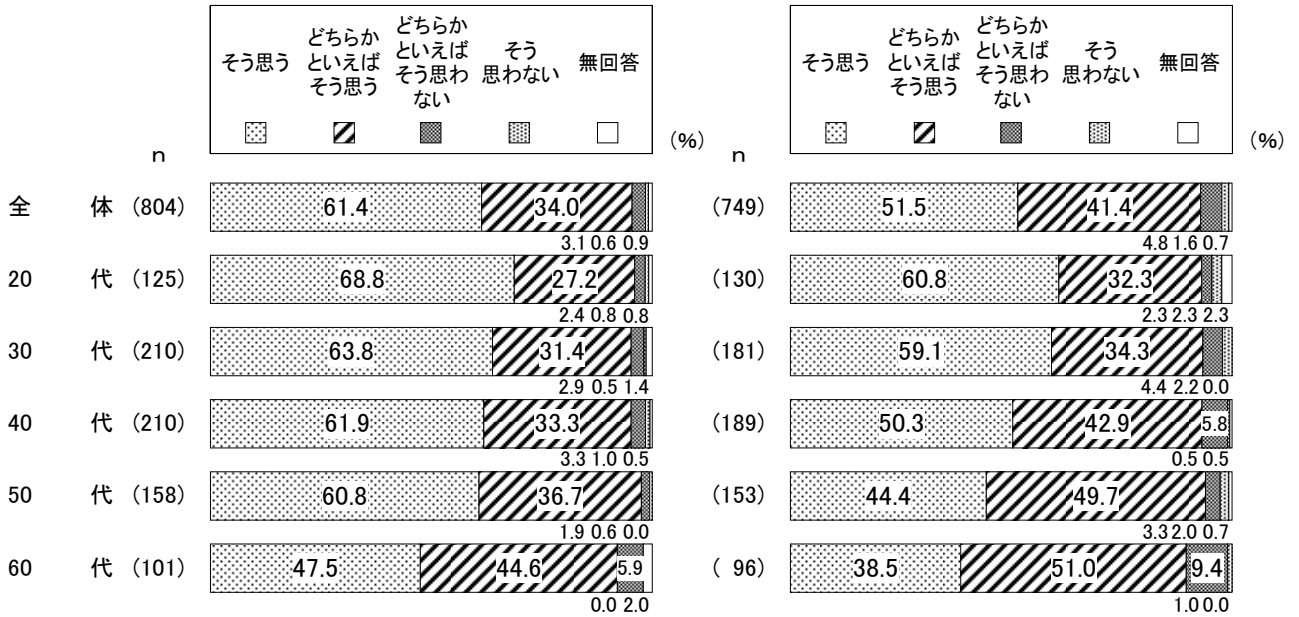
＜男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい＞



<父親はもっと子育てに関わる方がよい>

【女性】

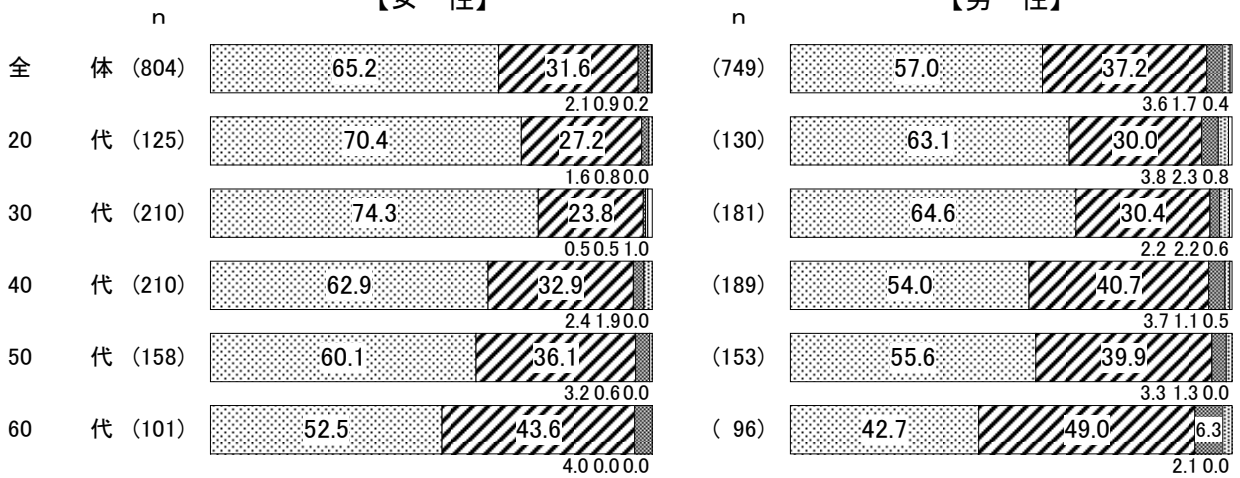
【男性】



<子育てには地域社会の支援も必要である>

【女性】

【男性】



【属性別 家庭・家族とのかかわり】

【性別】

「子どもや経済的な不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は女性の《肯定派》76.2%に対して男性では61.3%、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は女性の《肯定派》60.2%に対して男性では48.6%となっており、女性の方が問題の所在にかかわらず離婚を容認する割合が高い。

「家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない」は男女共に《否定派》が半数を超えるものの、女性の《否定派》57.0%に対して、男性の《否定派》は75.2%となっている。

「仕事のために、女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ」は性別による違いは少ない。(図1-3-5)

【結婚状況別】

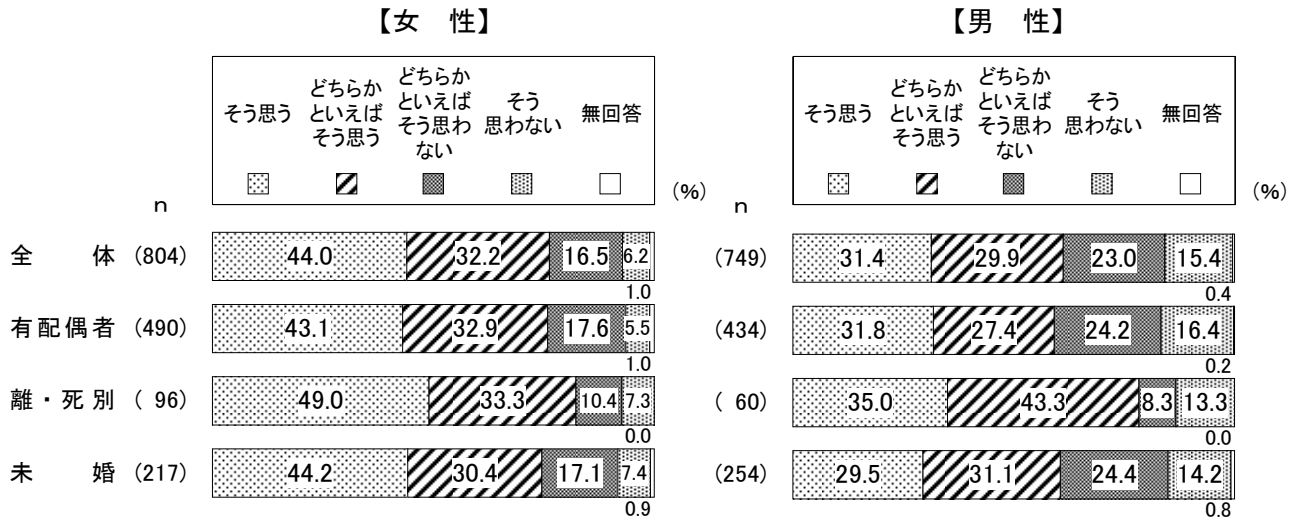
「子どもや経済的な不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は女性では結婚状況にかかわらず《肯定派》が7割以上を占め、男性は有配偶者と未婚で6割前後と差が生じている。しかし、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」になると、女性の離・死別の内75.0%が《肯定派》なのに対して、有配偶者では58.6%、未婚では57.6%と、経験により考え方に違いが生じている。男性においても類似の傾向がみられ、《肯定派》は離・死別で7割と高くなっている。

また、「家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない」は、有配偶者および未婚では《肯定派》が4割台、離・死別では51.1%となり、意見に違いが生じている。一方、男性では有配偶者の《肯定派》は21.4%とむしろ少なく、女性有配偶者との違いが大きくなっている。

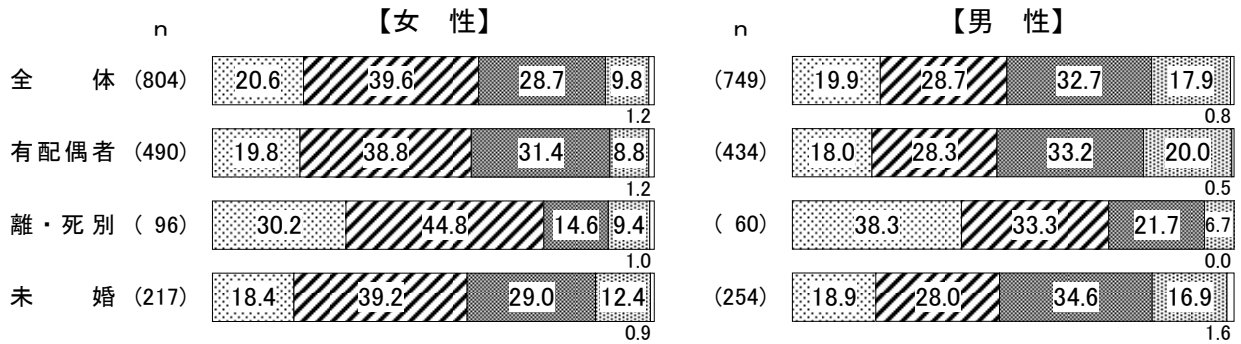
「仕事のために、女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ」もまた、結婚状況により違いがみられる。女性の離・死別では《肯定派》が70.8%、未婚では67.3%に対して、有配偶者では54.9%と減少している。男性でも離・死別の《肯定派》65.0%、未婚の64.9%と有配偶者の55.8%の差は大きく、この問題に関しては、配偶者、ひいては家族の有無というそのものがその意見を大きく左右している。(図1-3-5)

図1-3-5 家族観・結婚観と男女の役割分担意識【家族・家庭とのかかわり】(結婚の状況別)

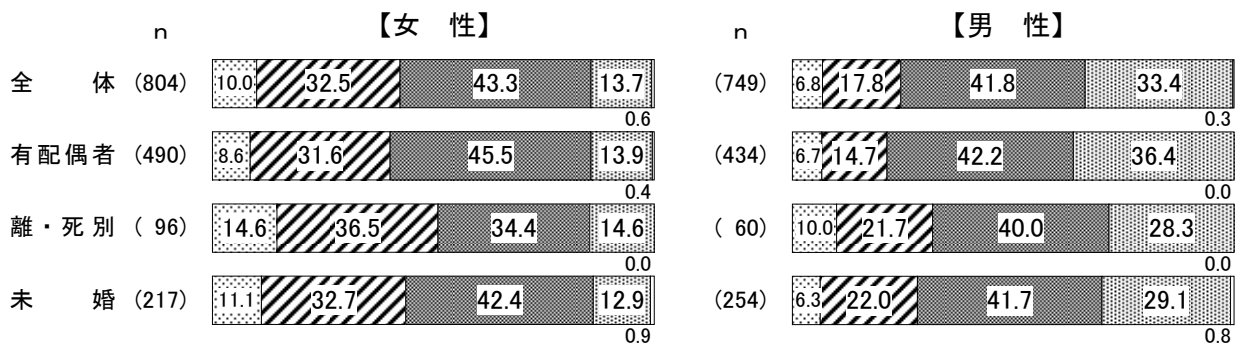
<子どもや経済的な不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない>



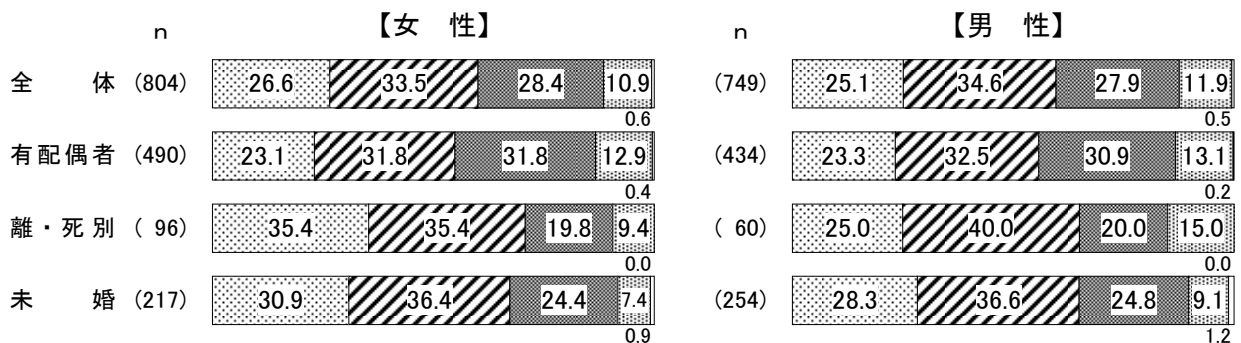
<子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない>



<家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない>



<自分の仕事のために、女性が単身赴任するのもひとつの生き方だ>



【属性別 男女役割分担意識】

【性別】

「家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい」は女性の《否定派》83.2%に対して男性では76.3%と7ポイントの開きがある。また、『男は仕事、女は家庭』という考え方には共感するも、女性の《否定派》72.1%に対して男性では62.9%とこちらも大きな差が生じており、役割分担に対しては、男女共に《否定派》が過半数を超えているものの、その意識には依然として顕著な温度差が残っている。(図1-3-6)

【性・年代別】

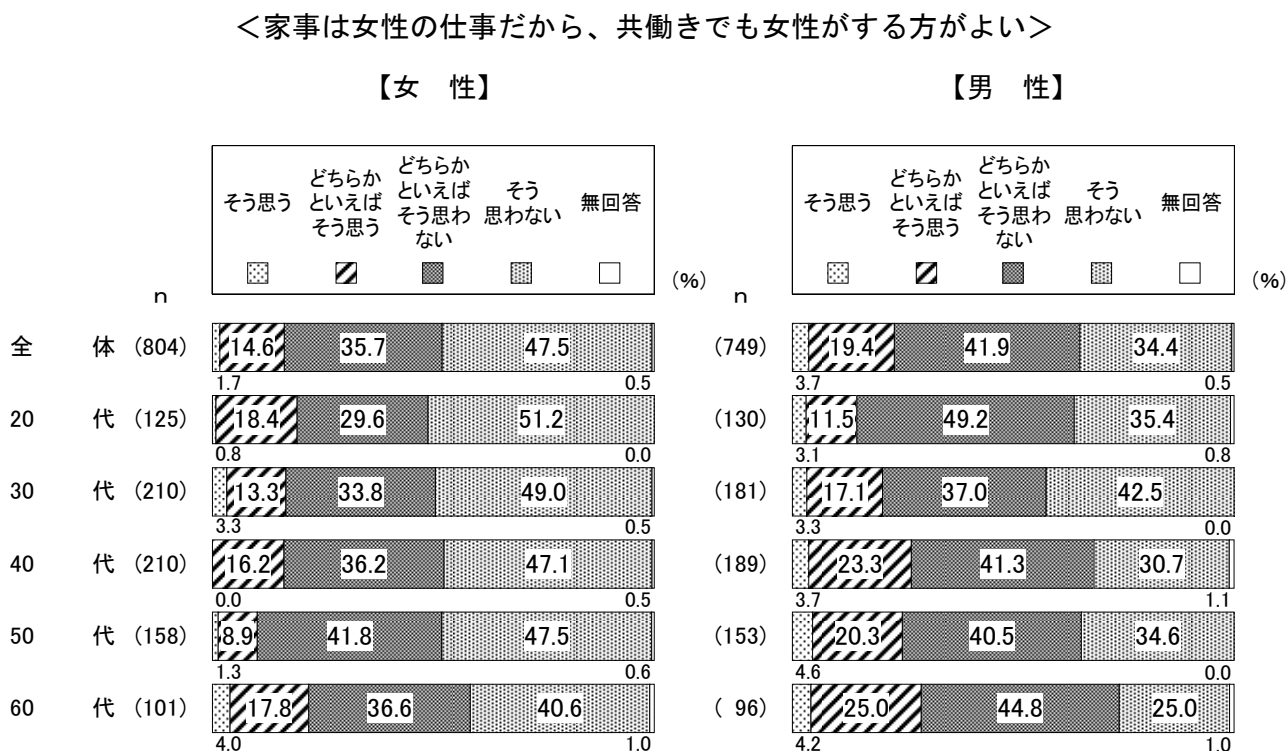
「家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい」は男性では年代が若い層でより《否定派》が多い。

『男は仕事、女は家庭』という考え方には共感するは、女性では一貫して《否定派》は6割以上を占めているが、男性では《否定派》は60代で53.1%と差が生じている。

「家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている」では、《肯定派》は男性60代で78.1%と多くなっているが、女性40代と男性では20代では5割台と比較的少ない。

(図1-3-6)

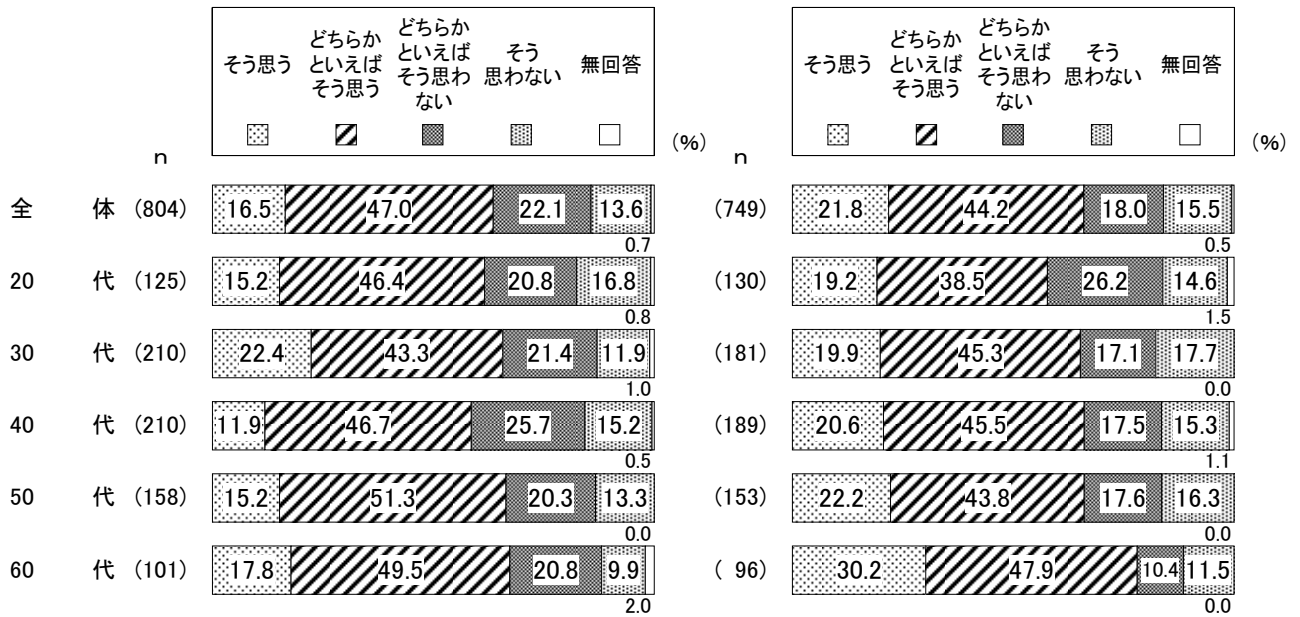
図1-3-6 家族観・結婚観と男女の役割分担意識【男女役割分担意識】(性・年代別)



<家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている>

【女性】

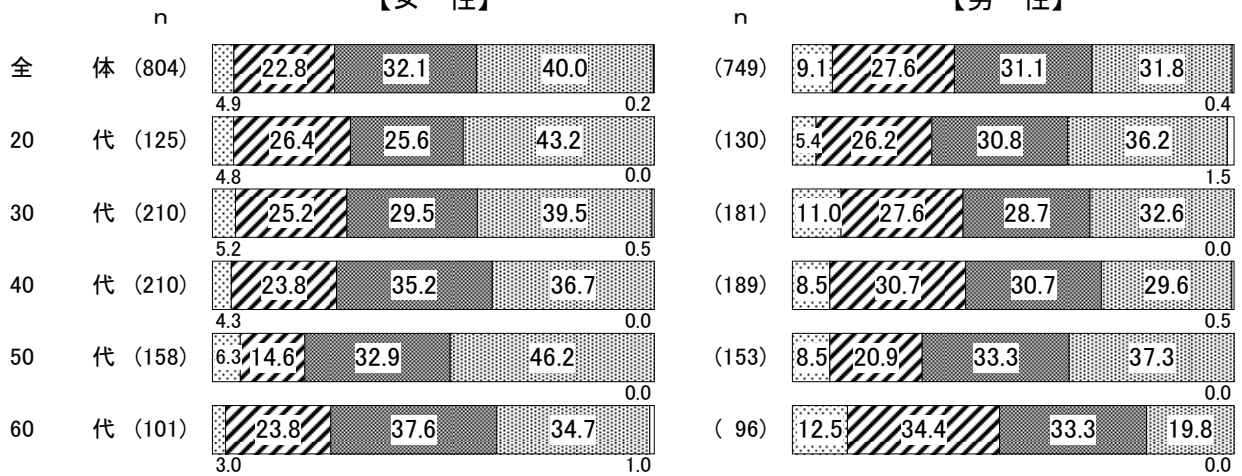
【男性】



<「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する>

【女性】

【男性】

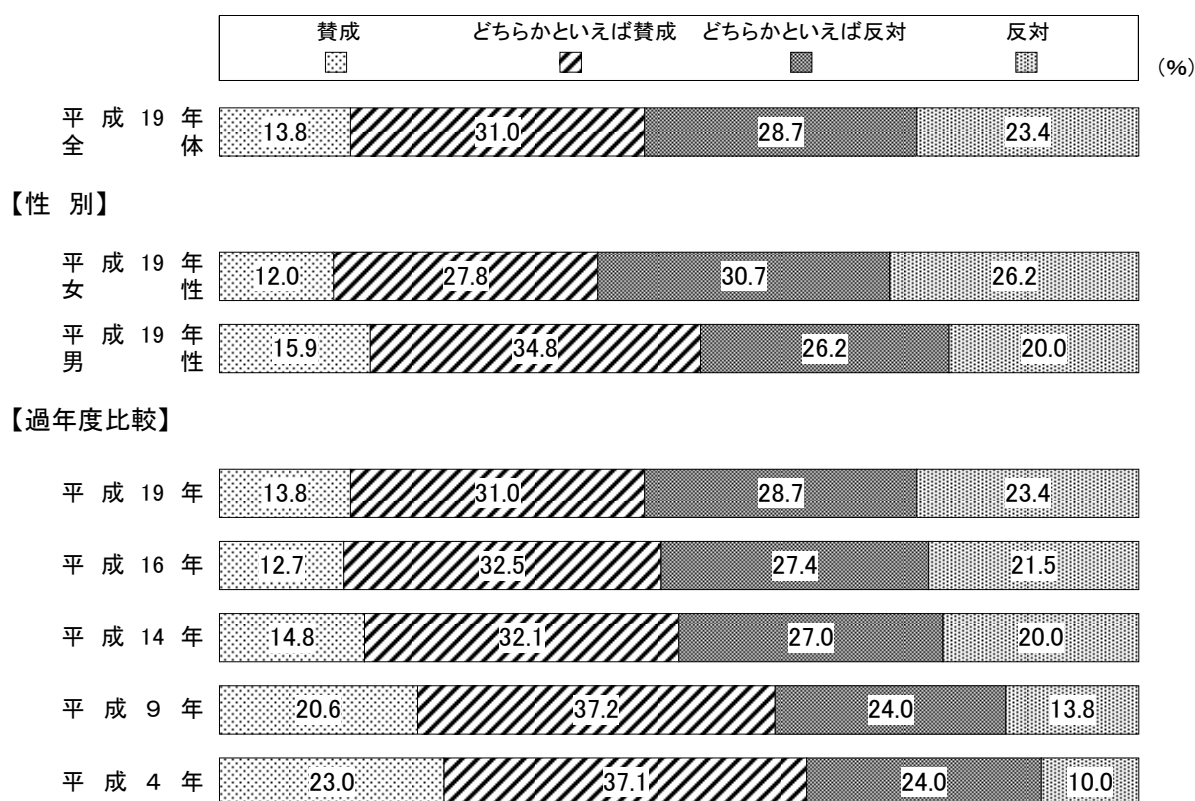


【参考 全国調査では】

内閣府実施の「男女共同参画に関する世論調査」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について経年調査を行っている。

平成19年8月に実施された調査では、「反対（どちらかといえば含む）」は52.1%と多数を占めている。また、平成4年以降、反対派の割合が着実に増えており、区の結果同様、男女共同参画の意識の浸透が見て取れる。（図1-3-7）

図1-3-7 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（内閣府）

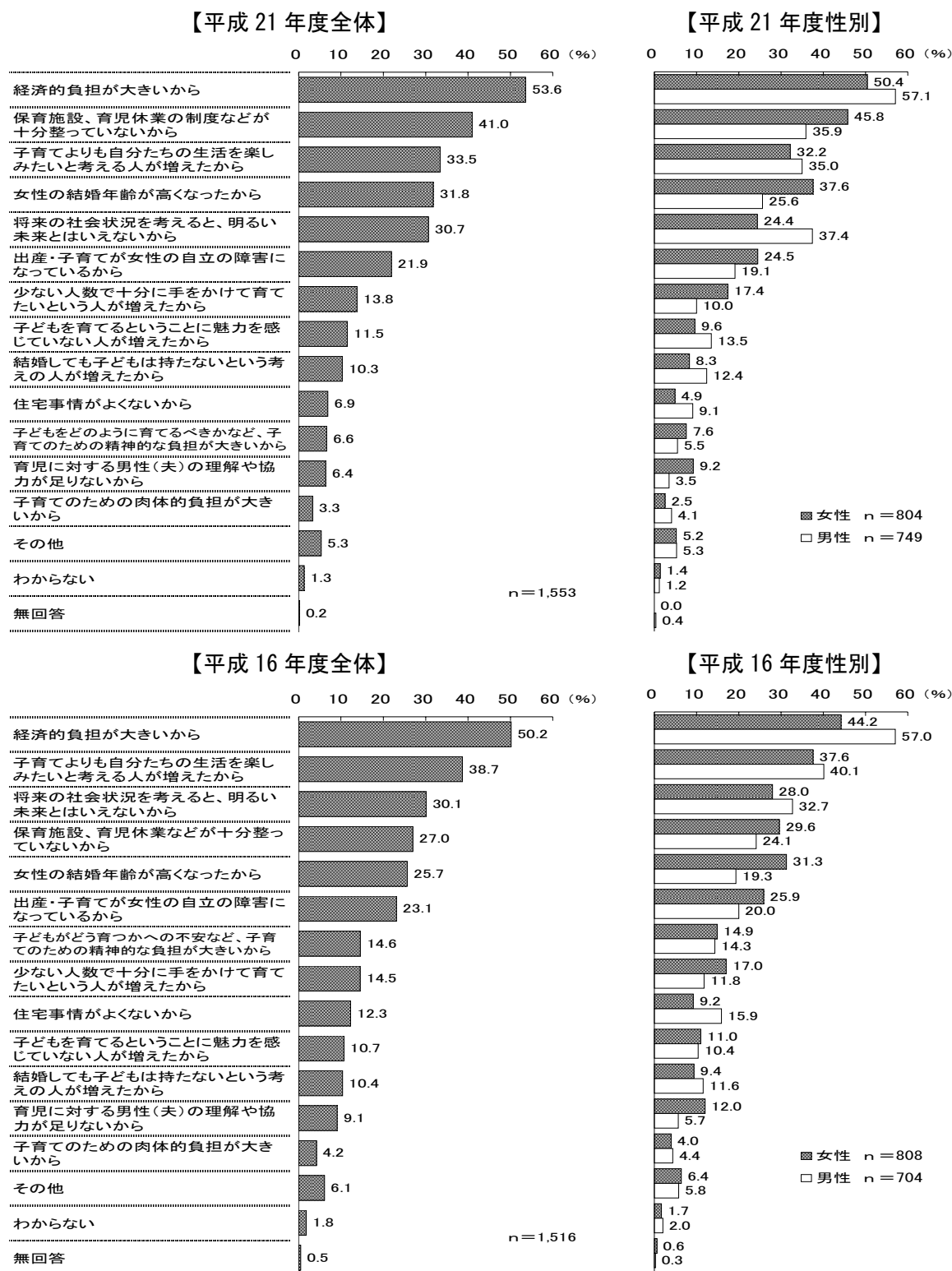


1-4 少子化の原因

◎「経済的負担が大きいから」が5割を超えて特に多い。

問4 ここ数年出生率の低下が進み、一人の女性が生涯に産む子どもの平均数（合計特殊出生率）は、1.37人（平成20年 厚生労働省人口動態統計）と低水準に留まっています。少子化の原因は何だと思いますか。（○は3つまで）

図1-4-1 少子化の原因（全体・性別）



少子化の原因としては、「経済的負担が大きいから」が 53.6%で特に多くなっている。以下、「保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから」(41.0%)、「子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考える人が増えたから」(33.5%)、「女性の結婚年齢が高くなったから」(31.8%)、「将来の社会状況を考えると、明るい未来とはいえないから」(30.7%)、「出産・子育てが女性の自立の障害になっているから」(21.9%)と続いている。(図 1-4-1)

【性別】

性別でみてもあげられている項目に大きな違いはないが、「保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから」、「女性の結婚年齢が高くなったから」、「出産・子育てが女性の自立の障害になっているから」、「少ない人数で十分に手をかけて育てたいという人が増えたから」は女性でより多くあげられている。一方、男性では「経済的負担が大きいから」が 57.1%と特に多くなっている。(図 1-4-1)

【過年度比較】

「経済的負担が大きいから」は全体では平成 16 年度と大きな違いはないが、女性では平成 16 年度 44.2%から 50.4%と増加している。

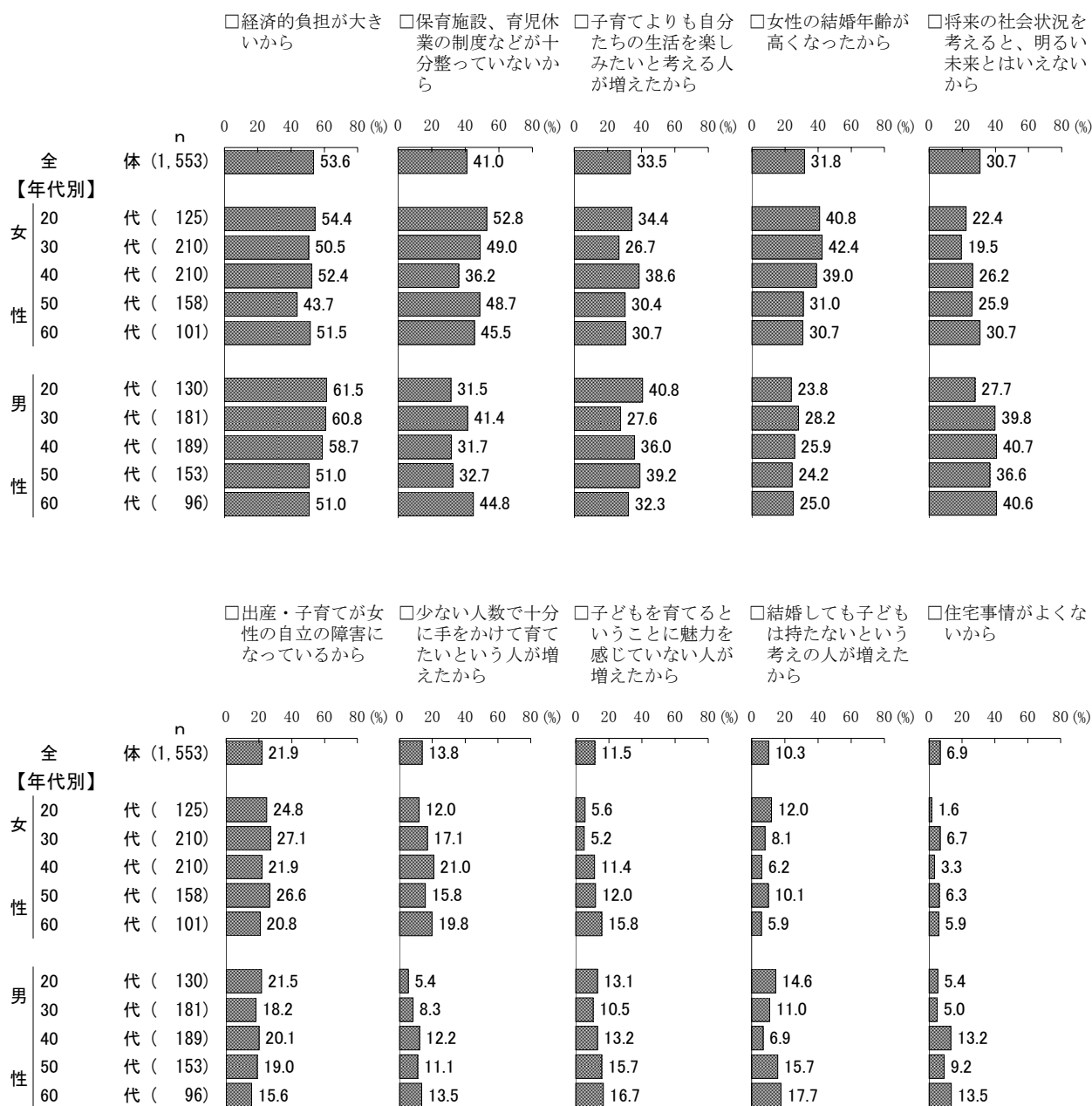
「保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから」は平成 16 年度 27.0%が 41.0%と大きく増加し、これは男女ともに共通している。(図 1-4-1)

【性・年代別】

「経済的負担が大きいから」は性・年代別を問わず多くなっている。

「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」は女性の20代、30代、50代で5割前後と多く、子育てに対する家庭や社会における協力体制の少なさがネックになっているという認識が強く示されている。男性では30代以降で「将来の社会状況を考えると、明るい未来とはいえないから」が3割半ばを超えている点も注目すべき結果といえよう。(図1-4-2)

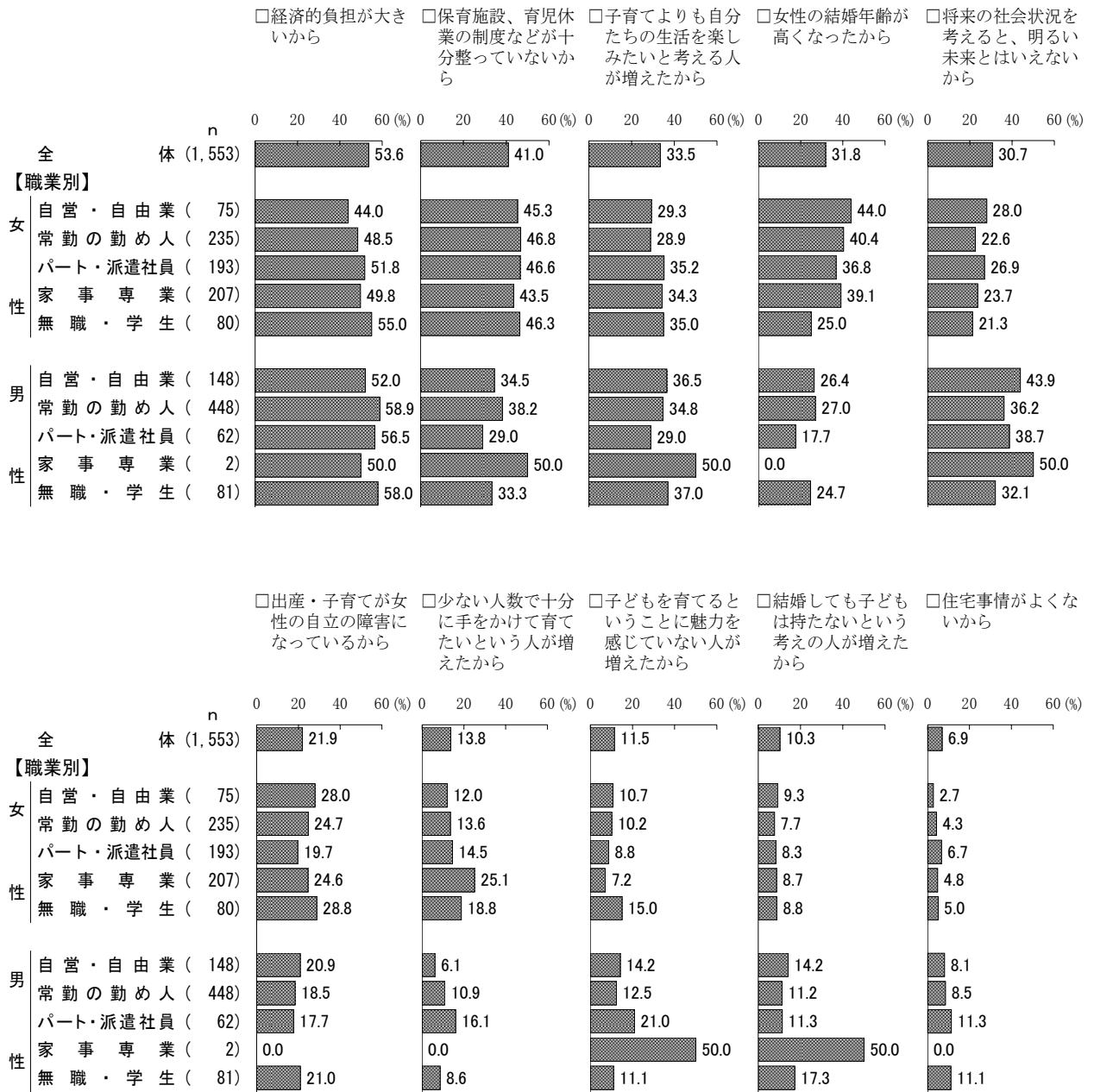
図1-4-2 少子化の原因(上位10位)(性・年代別)



【就労状況別】

女性では、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」は就労状況に関わらず4割以上を占め、「出産・子育てが女性の自立の障害になっているから」は自営・自由業と無職・学生で3割近くとなっている。(図1-4-3)

図1-4-3 少子化の原因(上位10位)(職業別)

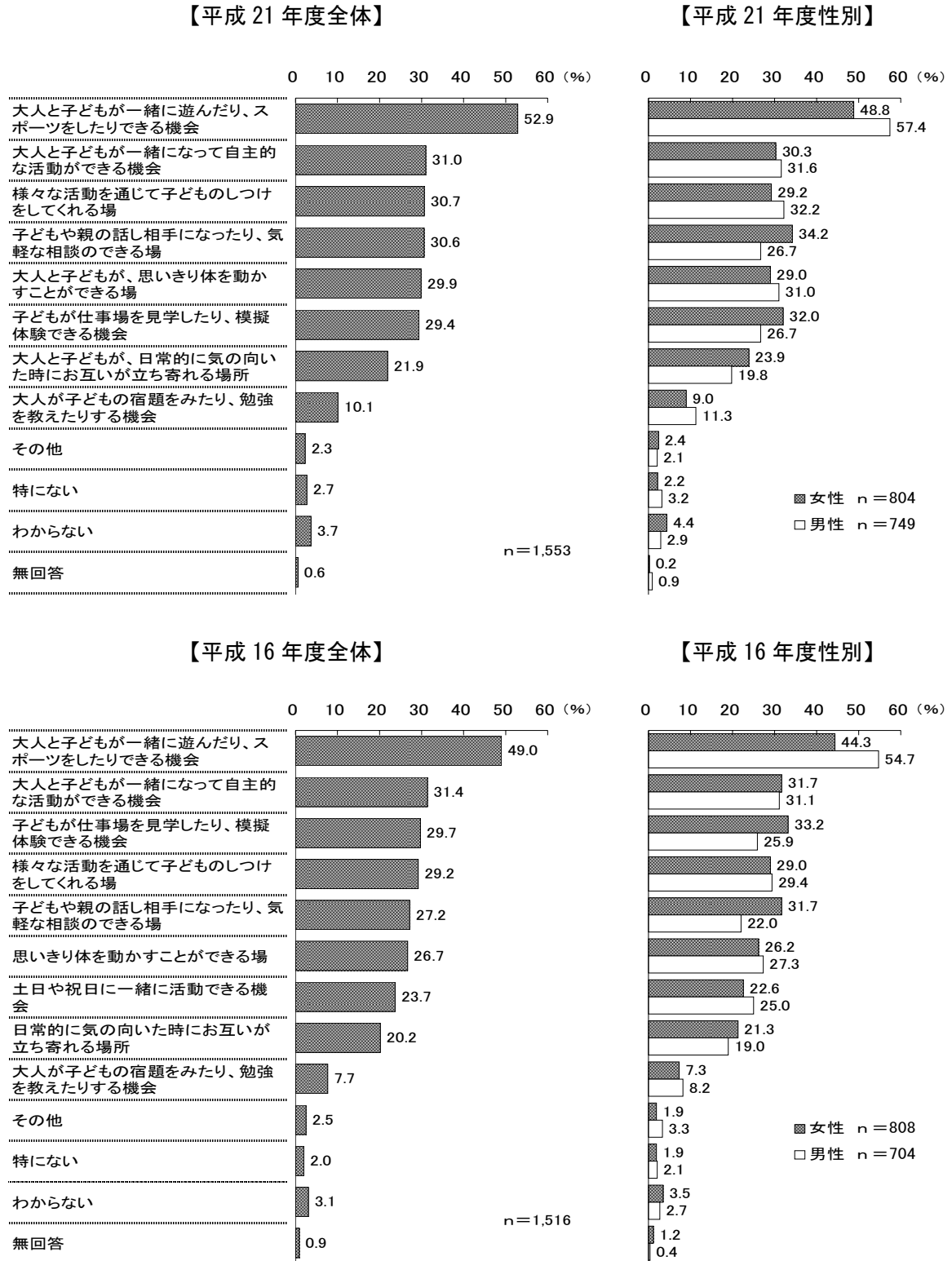


1-5 望ましい大人と子どもの交流の機会・場

◎「大人と子どもと一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」は2人に1人。

問5 身近な地域における大人と子どもの交流の機会・場として、どのようなものが望ましいと思いますか。(〇は3つまで)

図1-5-1 望ましい大人と子どもの交流の機会・場（全体・性別）



身近な地域における望ましい世代間交流の機会・場としては、「大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」が52.9%と最も多く、以下「大人と子どもが一緒になって自主的な活動ができる機会」(31.0%)、「様々な活動を通じて子どものしつけをしてくれる場」(30.7%)、「子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場」(30.6%)、「大人と子どもが、思いきり体を動かすことができる場」(29.9%)、「子どもが仕事場を見学したり、模擬体験できる機会」(29.4%)が3割前後で続いている。(図1-5-1)

【性別】

性別でみると、「大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」は男性(57.4%)で女性(48.8%)よりも多く、「子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場」と「子どもが仕事場を見学したり、模擬体験できる機会」は女性では3割を超え、男性よりも多くなっている。これ以外の項目では、おおむね共通した意見となっている。

(図1-5-1)

【過年度比較】

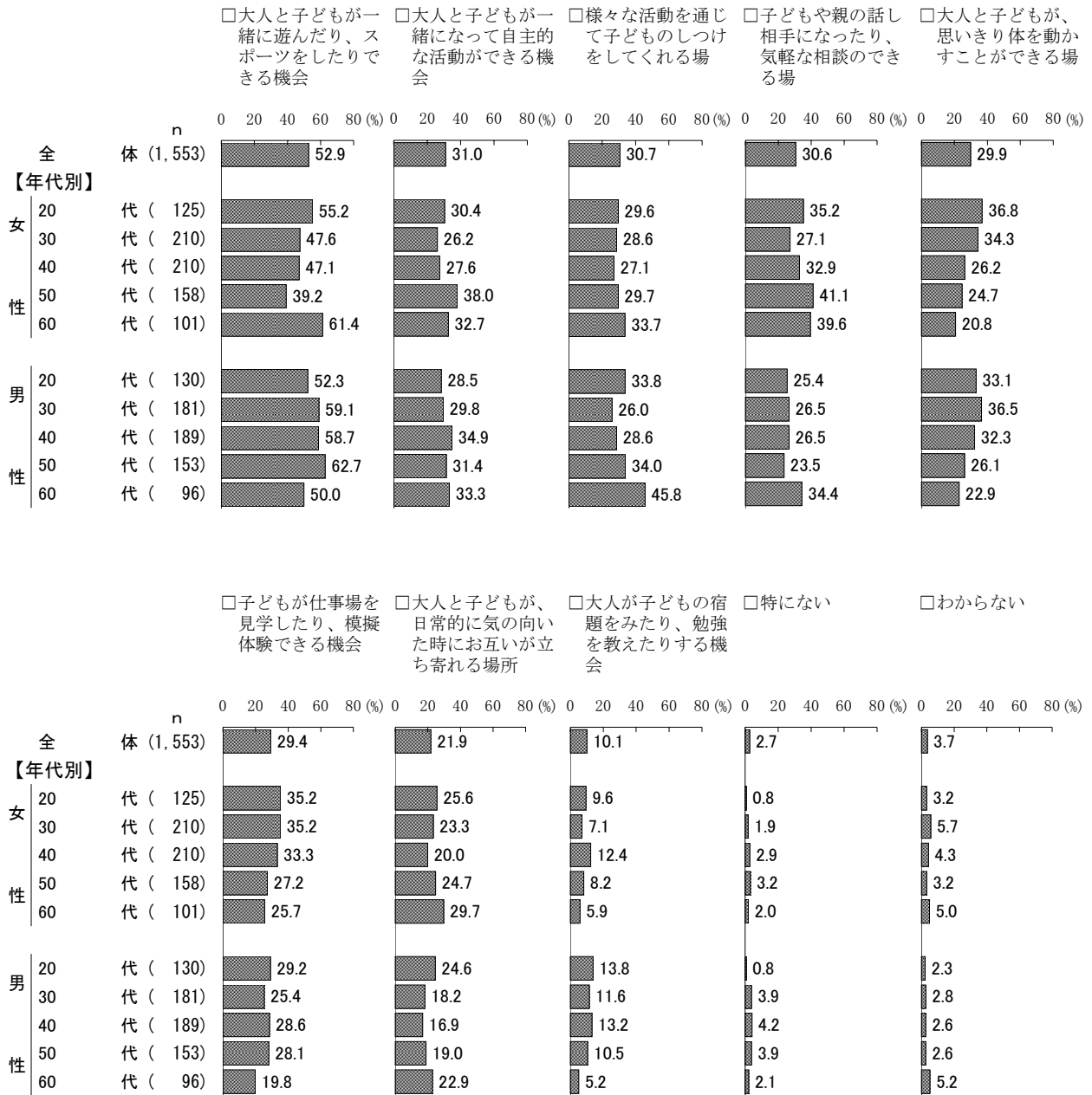
「大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」は全体では平成16年度49.0%から52.9%と増加しており、男女ともに増加がみられる。(図1-5-1)

【性・年代別】

「大人と子どもと一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」は各年代で多く、世代を超えた要望となっていることが分かる。「子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場」は女性の50代、60代で多くなっている。

「様々な活動を通じて子どものしつけをしてくれる場」は男性60代では45.8%となっている。(図1-5-2)

図1-5-2 望ましい大人と子どもの交流の機会・場（性・年代別）



第2章 労働・職場

2-1 就労状況

(1) 本人の職業

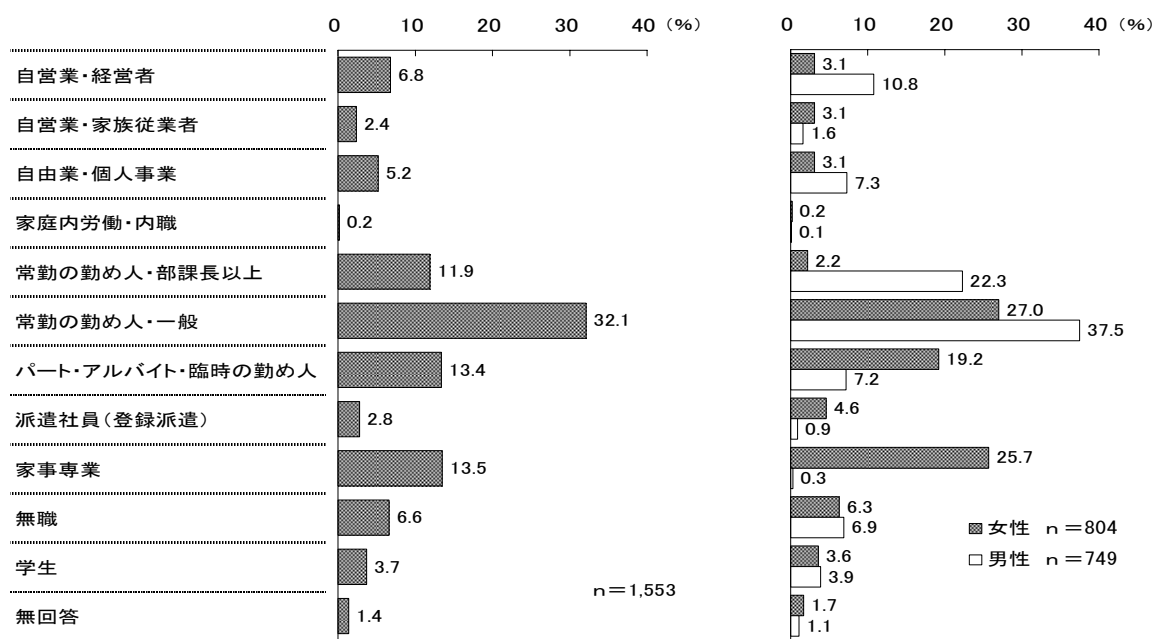
◎女性の就労率は62.5%。

問6 あなたの職業は次のどれですか。(○は1つだけ)

図2-1-1 本人の職業（全体・性別）

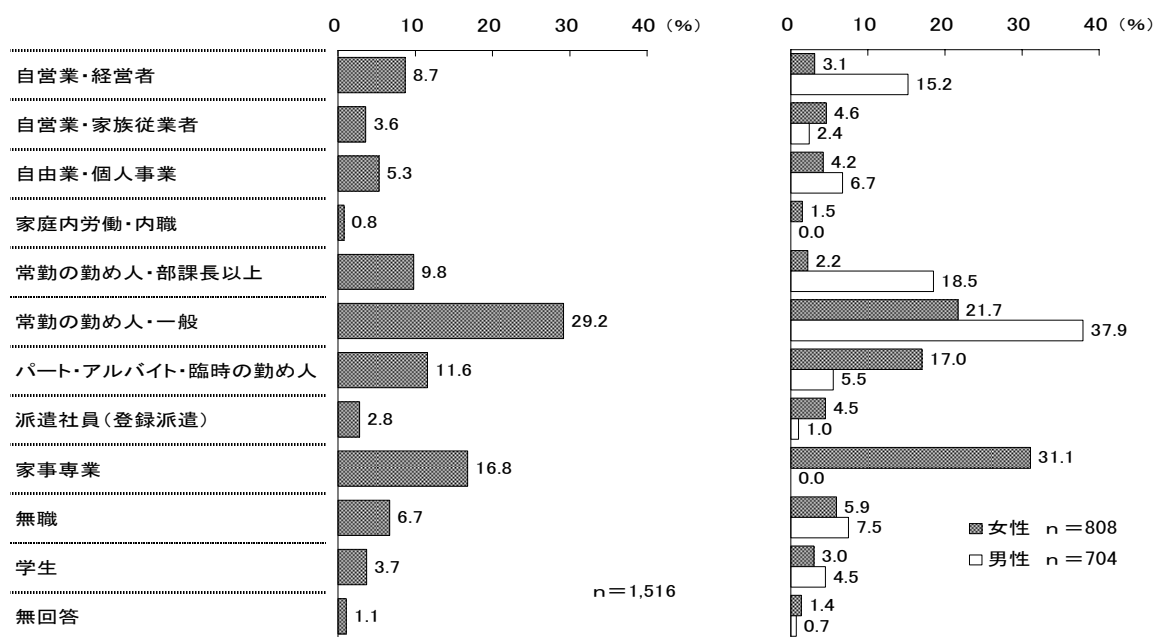
【平成21年度全体】

【平成21年度性別】



【平成16年度全体】

【平成16年度性別】



就労状況は、《自営業・自由業等》が1割半ば、《勤め人》が4割半ば、《家事専業および無職》(学生を含む)が約2割となっている。(図2-1-1)

【性別】

女性の就労率は62.5%であり6割以上が何らかの職業についているが、男性の87.7%とは大きな開きがあり、25.7%が「家事専業」である。

就労形態は男女とも「常勤・一般」が最も多いものの、これに続くのは、女性では「パート・臨時」(19.2%)であり、男性では「常勤・部課長以上」(22.3%)、「自営・経営」(10.8%)である。(図2-1-1)

【過年度比較】

女性では「常勤・一般」で平成16年度21.7%から27.0%と増加し、「家事専業」が31.1%から25.7%と減少している。(図2-1-1)

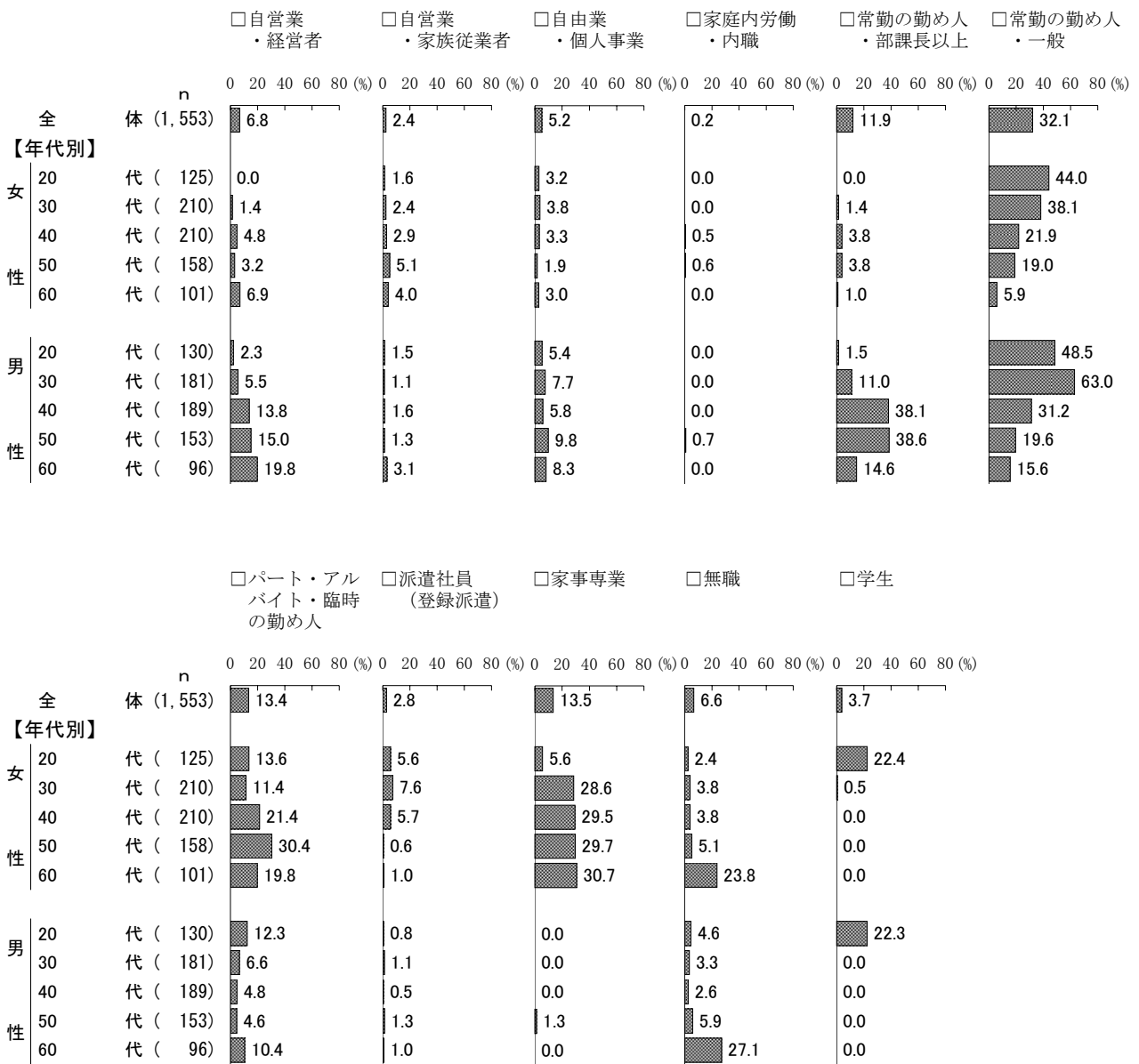
【性・年代別】

男性では、30代までは「常勤・一般」が特に多くなっているが、40代以降では「常勤・部課長」あるいは「自営・経営」の割合が増加している。これは男性のみに生じている変化であり、女性ではこのような変化はほとんど現れていない。

女性の年代別に就労状況の変化をみると、「常勤・一般」に集中しているのは20代までである。30代以降では「家事専業」を中心に、「常勤・一般」および「パート・臨時」という選択肢が加わるが、50代以降では「パート・臨時」の割合の方が多くなっている。

(図2-1-2)

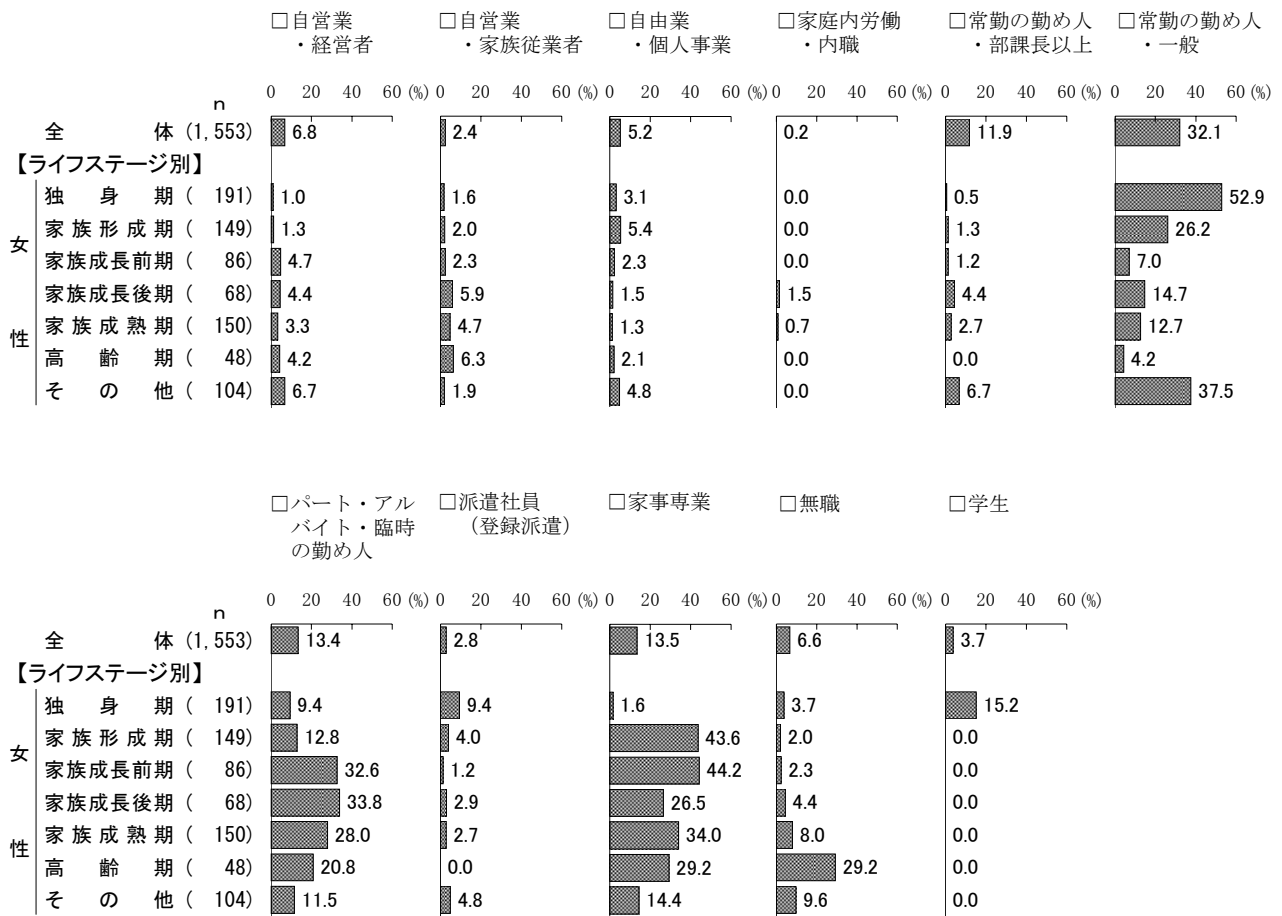
図2-1-2 本人の職業（性・年代別）



【女性・ライフステージ別】

女性の就労状況の変化は、独身期の「常勤・一般」から家族形成期の「家事専業」へ、さらに家族成長前期からは「パート・臨時」が増加してくるというように、末子の成長段階でみたライフステージと強く関連している。しかしながら、「常勤・一般」は家族を形成して以降、子どもの成長にかかわらず1割台前後と推移しており、家庭を持った女性が「常勤」として再就職することの少なさが示されている。(図2-1-3)

図2-1-3 本人の職業（女性・ライフステージ別）



(2) 就労理由

◎女性では「生計を維持するため」「自分の能力、技能、資格を生かすため」が多い。

(問6で「1」～「8」とお答えの方に)

問6-1 あなたが、働いている理由はどのようなことでしょうか。(○は3つまで)

図2-2-1 就労理由(全体・性別-平成21年度)

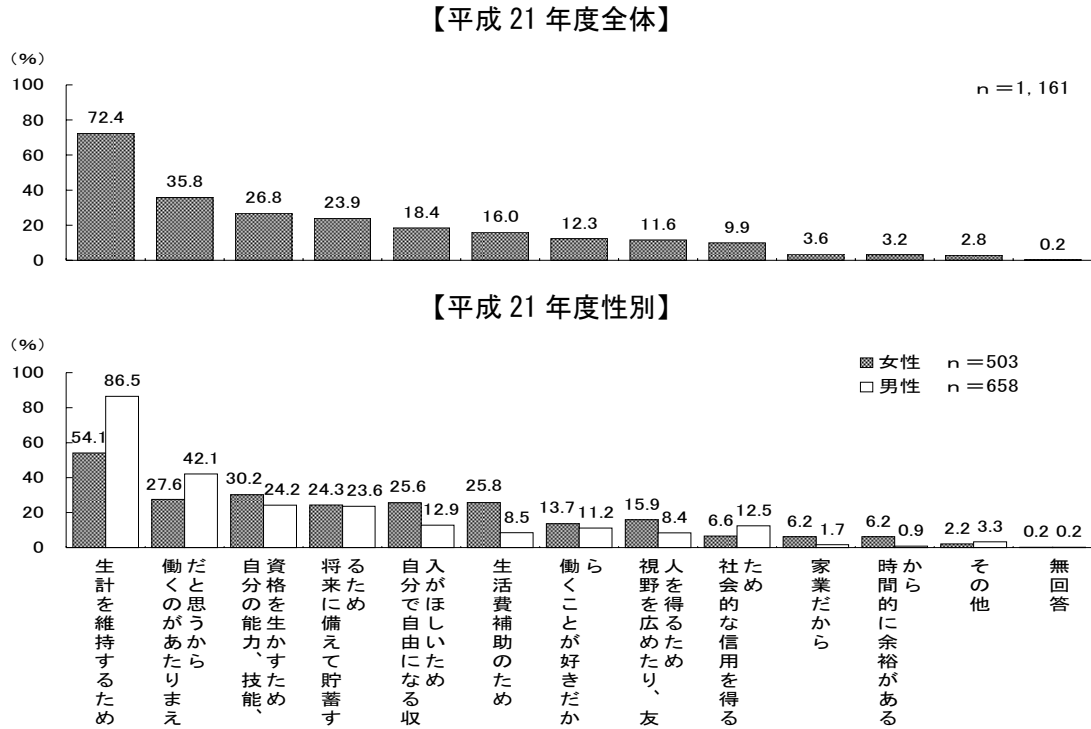
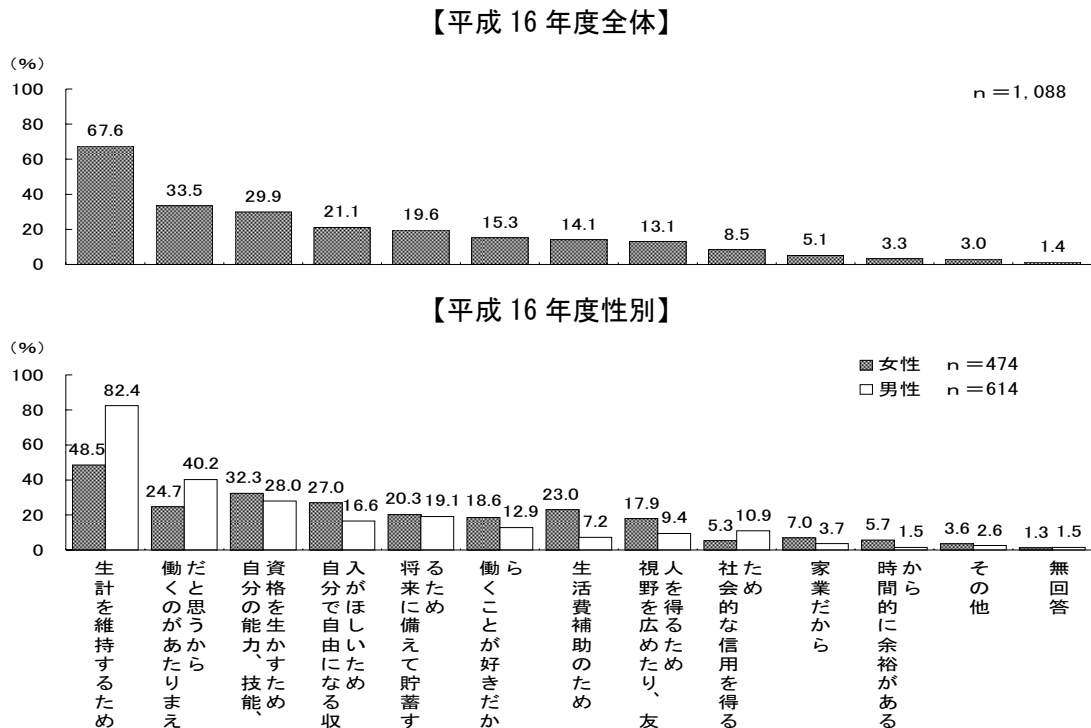


図2-2-2 就労理由(全体・性別-平成16年度)



現在、働いている人にその理由を聞くと、「生計を維持するため」が72.4%で最も多く、「働くのがあたりまえだと思うから」(35.8%)、「自分の能力、技能、資格を生かすため」(26.8%)が続いている。(図2-2-1)

【性別】

性別で見ると、女性の場合、「生計を維持するため」(54.1%)とともに、「自分の能力、技能、資格を生かすため」(30.2%)、「自分で自由になる収入がほしいため」(25.6%)といった自己実現や経済的ゆとりに関する理由も多くなっている。これに対して、男性では「生計を維持するため」(86.5%)に集中しており、「働くのがあたりまえだと思うから」という理由が4割で続いている。(図2-2-1)

【過年度比較】

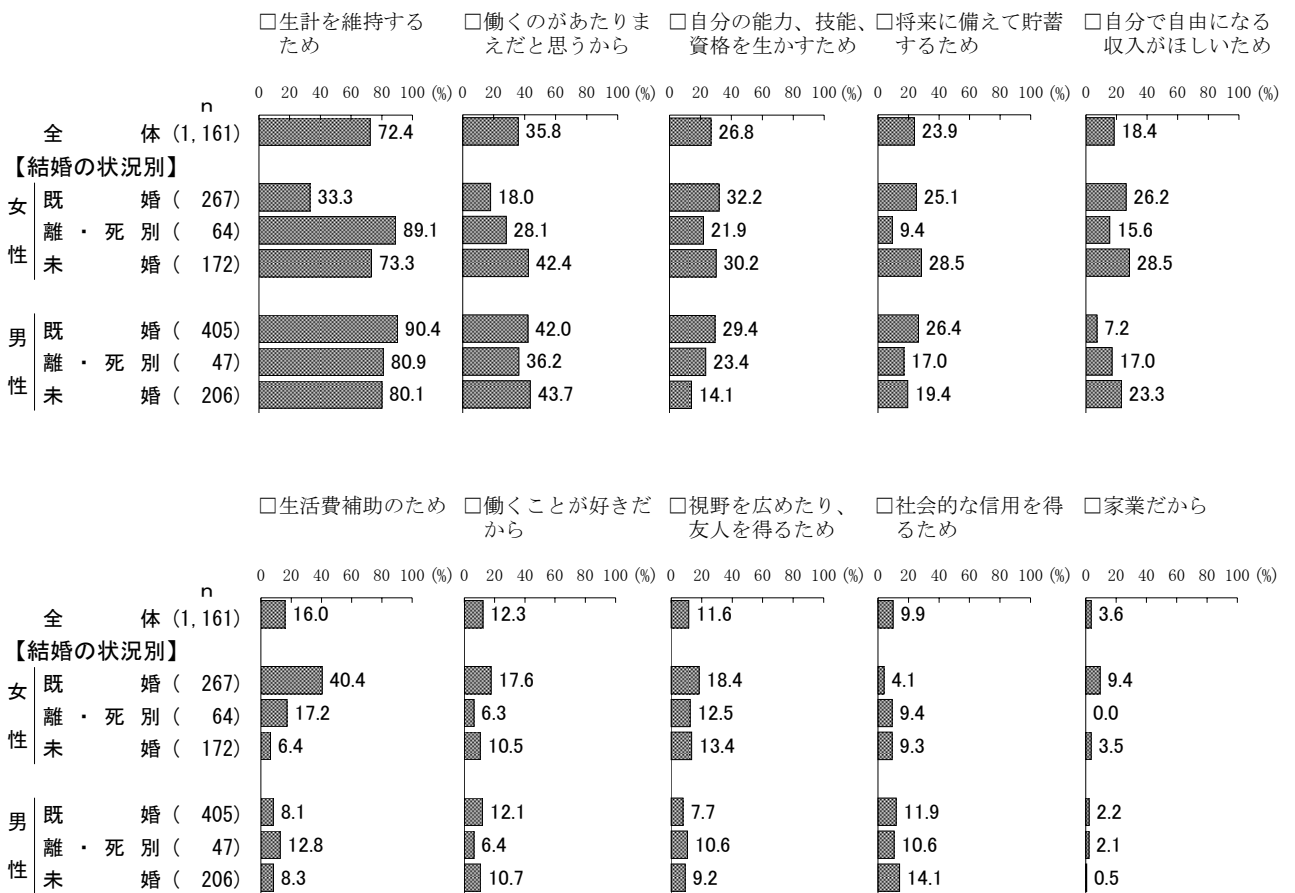
「生計を維持するため」は平成16年度67.6%から72.4%と増加しており、男女ともに増加している。(図2-2-2)

【結婚状況別】

女性の結婚状況別でみると、未婚者と既婚者（離別・死別）では「生計を維持するため」や「働くのがあたりまえだと思うから」という経済的自立傾向が多いが、既婚者（配偶者あり）ではこれらは減少し、「自分で自由になる収入がほしいため」や「生活費補助のため」といった経済的ゆとりを求める傾向が強い。これに対して男性ではむしろ、既婚者（配偶者あり）において「生計を維持するため」が多くなっており、男女ともに結婚を境に《男は働いて家庭を養い、女性は家計を切り盛りする》という役割分担に組み込まれていく様子がうかがえる。

(図 2-2-3)

図 2-2-3 就労理由（上位 10 位）（結婚状況別）



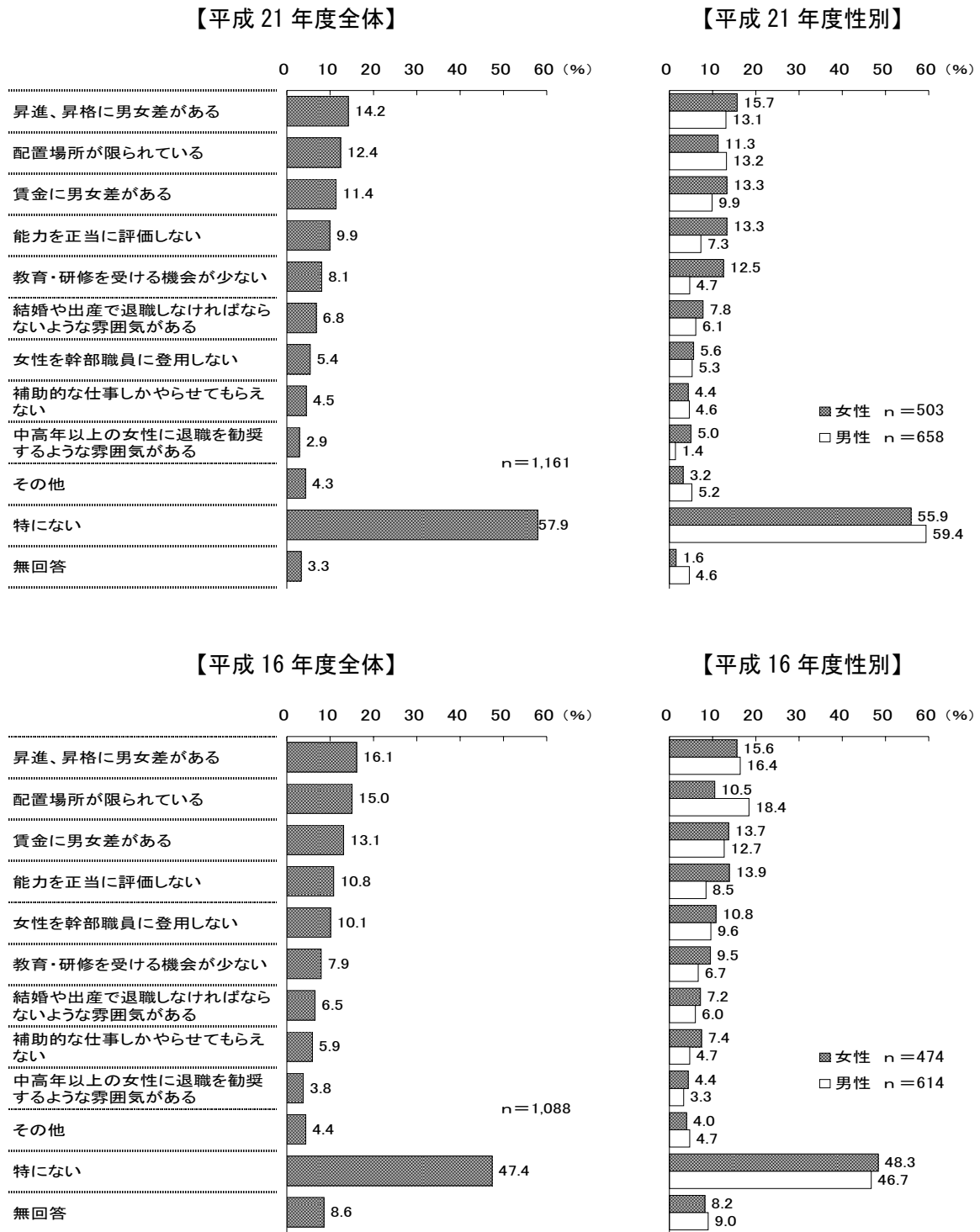
(3) 職場での女性差別

◎昇進・昇格をはじめとして依然として残る差別。

(問6で「1」～「8」とお答えの方に)

問6-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

図2-3-1 職場での女性差別 (全体・性別)



男女雇用機会均等法により、現在では職場における性に基づく差別が禁止されているが、仕事をしている人に職場での性差別について聞いたところ、「特にない」は 57.9%となっているものの、「昇進、昇格に男女差がある」(14.2%)、「配置場所が限られている」(12.4%)、「賃金に男女差がある」(11.4%)、「能力を正当に評価しない」(9.9%) など、依然として多くの差別が存在していることが指摘されている。(図 2-3-1)

【性別】

性別でもみても概ね共通の指摘がなされているが、「能力を正当に評価しない」と「教育・研修を受ける機会が少ない」は女性でやや多くなっている。(図 2-3-1)

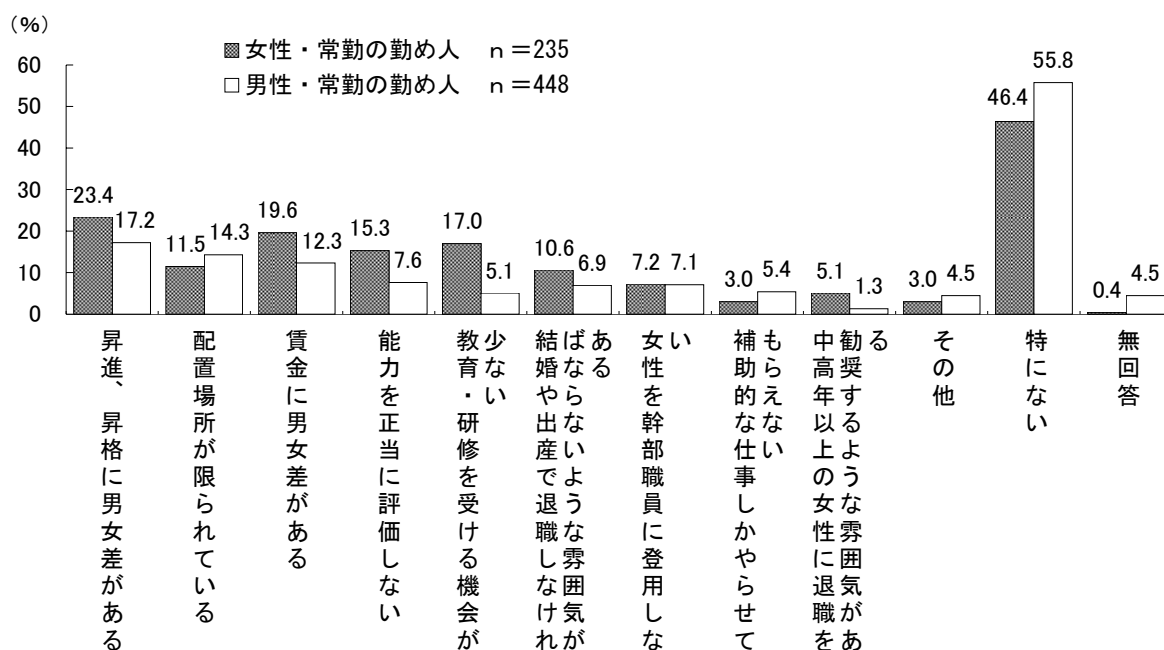
【過年度比較】

「特にない」が平成 16 年度 47.4%から 57.9%へと大きく増加しているが、昇進・昇格をはじめとして、依然として女性に対する差別が残る結果となった。(図 2-3-1)

【常勤の勤め人別】

またこれを男女の常勤の勤め人の意見でみると、女性・常勤の勤め人では「昇進、昇格に男女差がある」(23.4%)、「賃金に男女差がある」(19.6%)、「教育・研修を受ける機会が少ない」(17.0%)、「能力を正当に評価しない」(15.3%)などが男性・常勤の勤め人よりも多くあげられている。(図 2-3-2)

図 2-3-2 職場での女性差別 (常勤の勤め人別)



2-2 家事専業と無職の状況

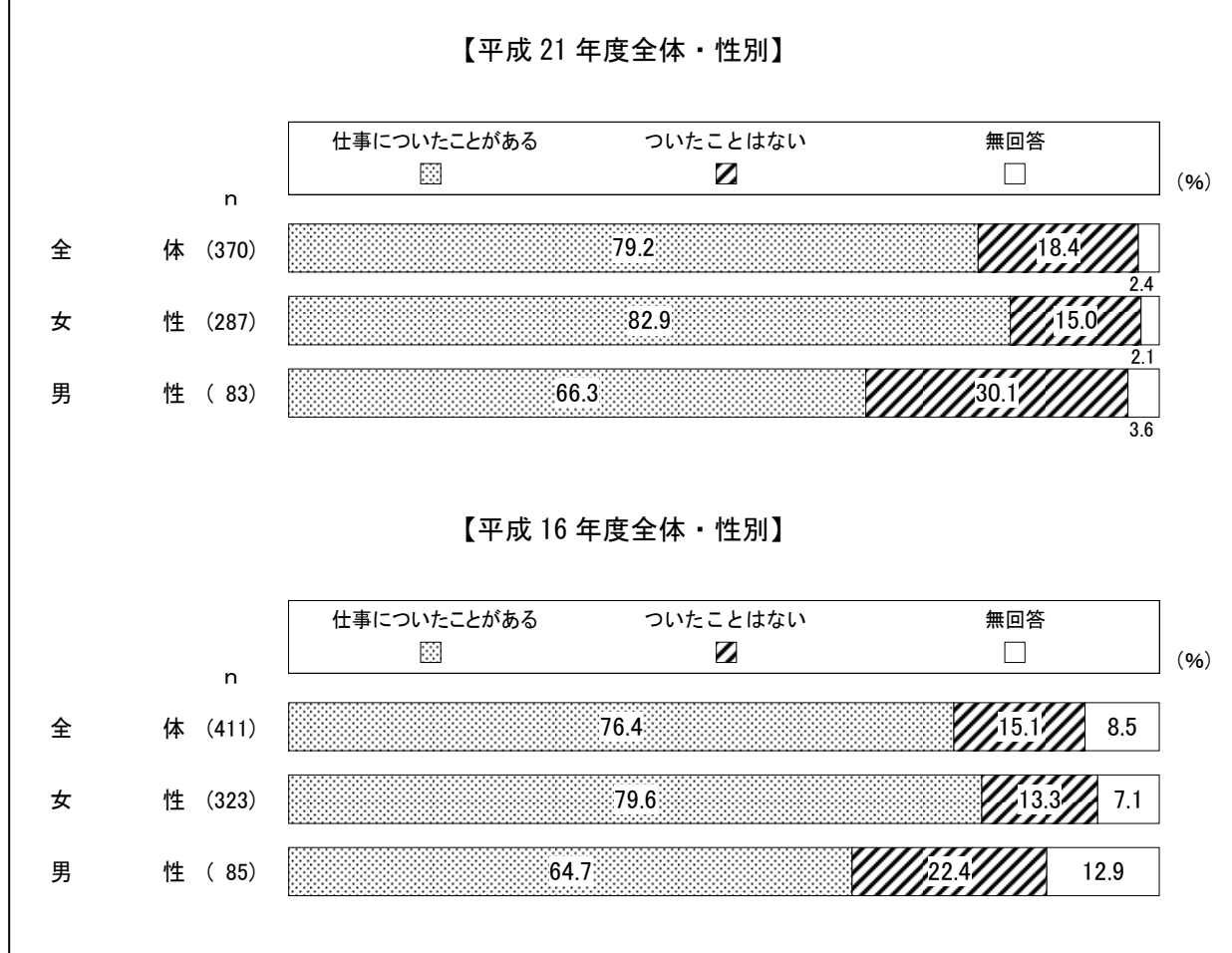
(1) 就労経験

◎就労経験ありは 79.2%。

(現在働いていない方のみ回答)

問7 あなたは、今までに仕事についていたことがありますか。(○は1つだけ)

図2-4-1 就労経験(全体・性別)



現在働いていない人の就労経験をみると、「仕事についていたことがある」が79.2%を占める。

(図2-4-1)

【性別】

性別でみると、「仕事についていたことがある」は女性では82.9%、男性では66.3%である。なお、現在家事専業の女性でも、79.0%が就労経験を有している。(図2-4-1)

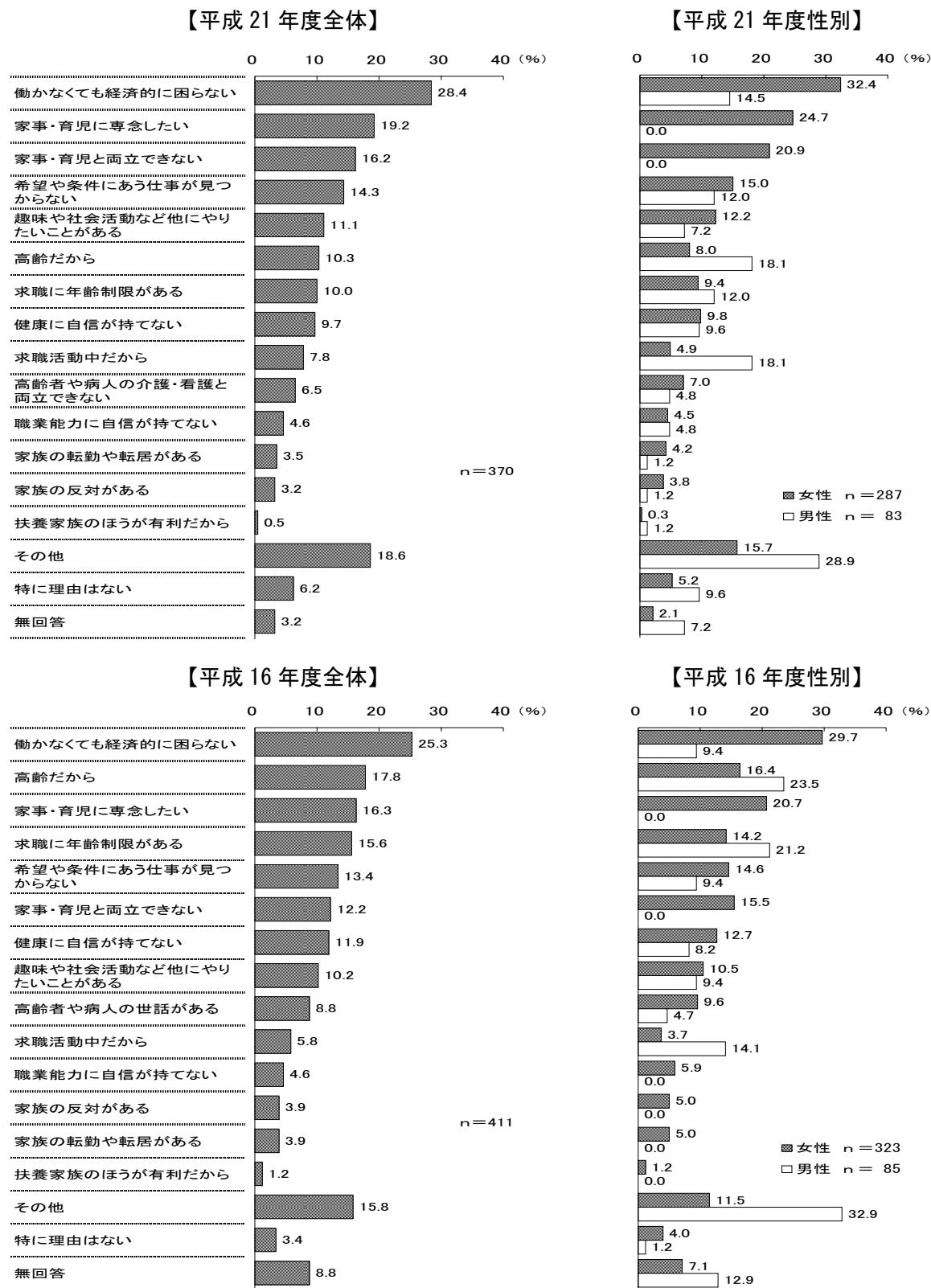
(2) 働いていない理由

◎女性では「働かなくても経済的に困らない」が多い、男性は高齢を中心とした理由が多い。

(現在働いていない方のみ回答)

問8 あなたが、現在働いていない理由は、次のどれにあたりますか。(〇は3つまで)

図2-5-1 働いていない理由(全体・性別)



現在働いていない理由は、「働かなくても経済的に困らない」(28.4%)が最も多く、これに「家事・育児に専念したい」(19.2%)、「家事・育児と両立できない」(16.2%)、「希望や条件にあう仕事が見つからない」(14.3%)が続いている。(図2-5-1)

【性別】

性別で見ると、男性では「高齢だから」(18.1%)、「求職活動中だから」(18.1%)の2項目が多くなっている。

女性では「働かなくても経済的に困らない」(32.4%)が最も多いが、「家事・育児に専念したい」(24.7%)、「家事・育児と両立できない」(20.9%)、「希望や条件にあう仕事が見つからない」(15.0%)など多様な理由があげられている。(図2-5-1)

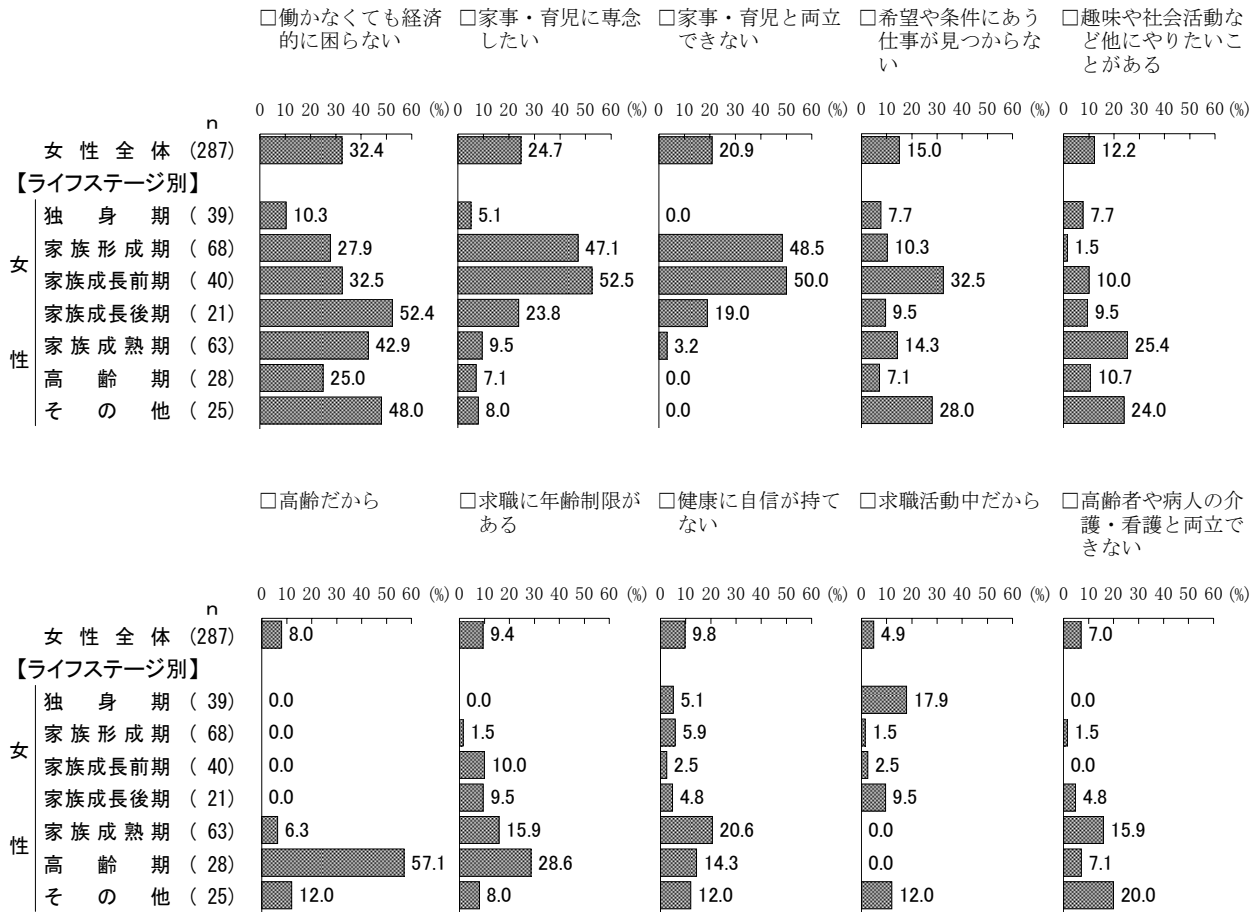
【過年度比較】

「高齢だから」は平成16年度17.8%から10.3%、「求職に年齢制限がある」は15.6%から10.0%へと減少しており、高齢を中心とした理由は減少傾向にある。(図2-5-1)

【女性・ライフステージ別】

これを女性のライフステージ別にみた場合、「家事・育児」をあげるのは圧倒的に家族形成期と成長前期に集中している。家族成長後期から成熟期にかけては「働かなくても経済的に困らない」が多くなっており、子どもの成長段階等により理由が異なってきている。(図2-5-2)

図2-5-2 働いていない理由(上位10位)(女性・ライフステージ別)



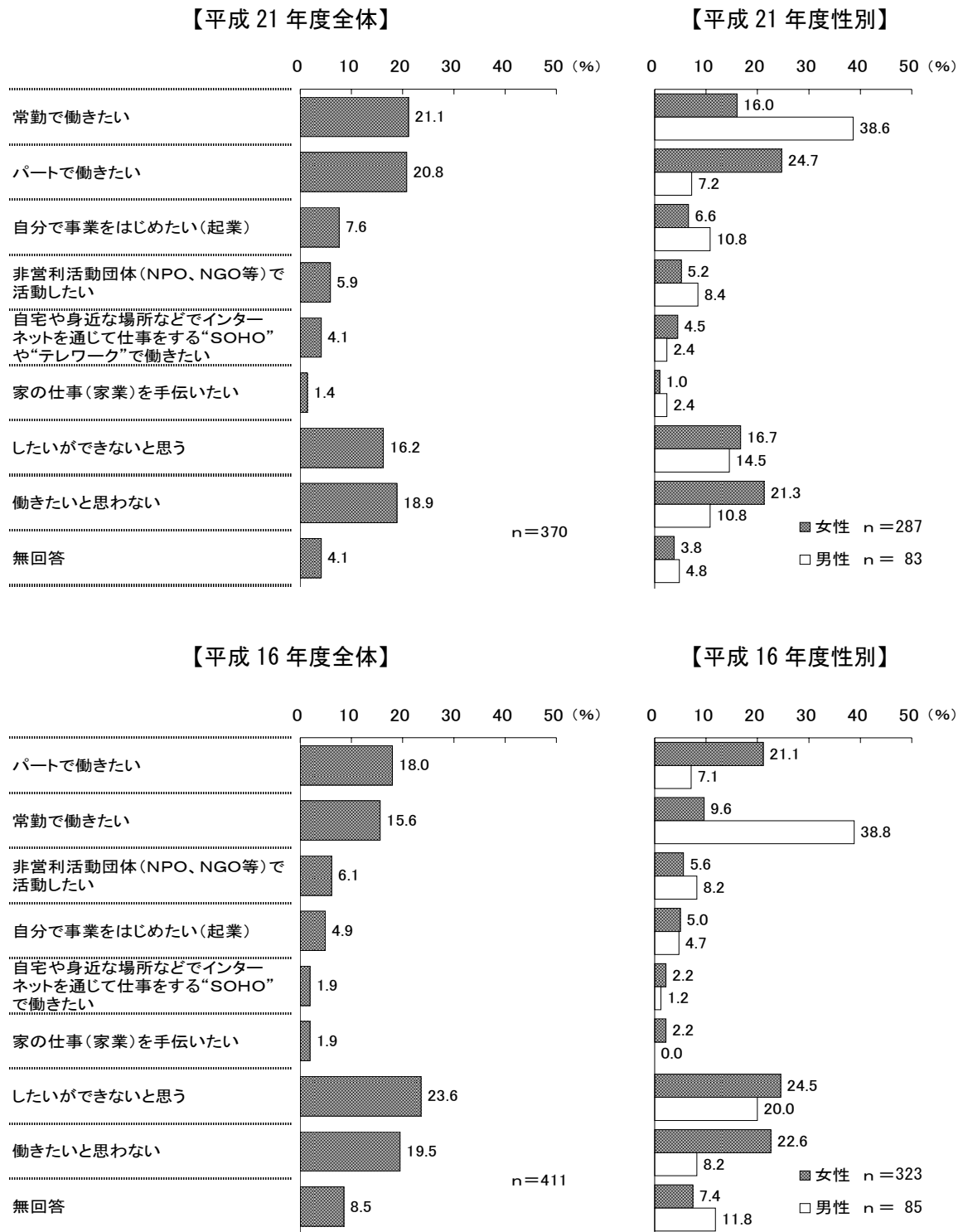
(3) 就労意向

◎6割近くの女性は仕事をしたいと思っており、希望形態は「パート」が多い。

(現在働いていない方のみ回答)

問9 あなたは、今後仕事や社会活動をしたしたいと思いますか。(○は1つだけ)

図2-6-1 就労意向(全体・性別)



今後の就労意向をみると、「常勤」(21.1%)、「パート」(20.8%)、「自分で事業をはじめたい」(7.6%)、「非営利活動団体(NPO、NGO等)で活動したい」(5.9%)、「SOHO」(4.1%)、「家業を手伝う」(1.4%)を合わせた、何らかの形で働きたいという意向を持っている人は60.9%と6割に達する。これに対して、「したいができないと思う」は16.2%、「働きたいと思わない」は18.9%である。

具体的な就労形態としては「常勤」(21.1%)と「パート」(20.8%)の2つが多くなっている。(図2-6-1)

【性別】

性別でみると、働きたい意向を示している人は女性で58.0%、男性で69.8%と男性でより高い。具体的な就労形態としては、女性では「パート」(24.7%)、男性では「常勤」(38.6%)の意向が顕著に多い。(図2-6-1)

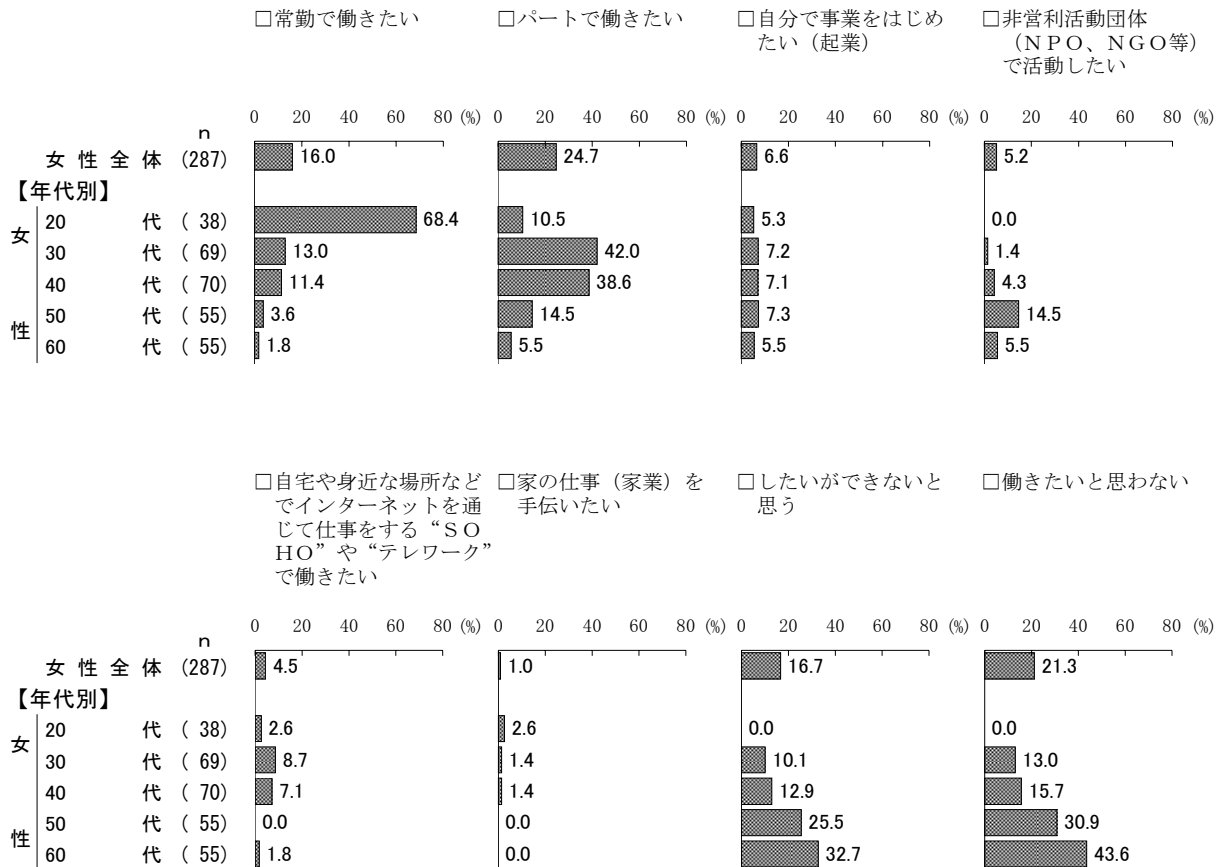
【過年度比較】

女性では「したいができないと思う」が平成16年度24.5%から16.7%へと大きく減少している。一方、「常勤」と「パート」が増加し、就労意向の拡大がみられる。(図2-6-1)

【女性・年代別】

女性の年代別で見ると、20代では常勤志向が7割近くだが、30代と40代では「パート」での就労意向が特に多い。50代以降は「したいができないと思う」や「働きたいと思わない」が多くなる。なお、50代では「非営利活動団体（NPO、NGO等）で活動したい」が1割台と比較的多くなっている。（図2-6-2）

図2-6-2 就労意向（女性・年代別）



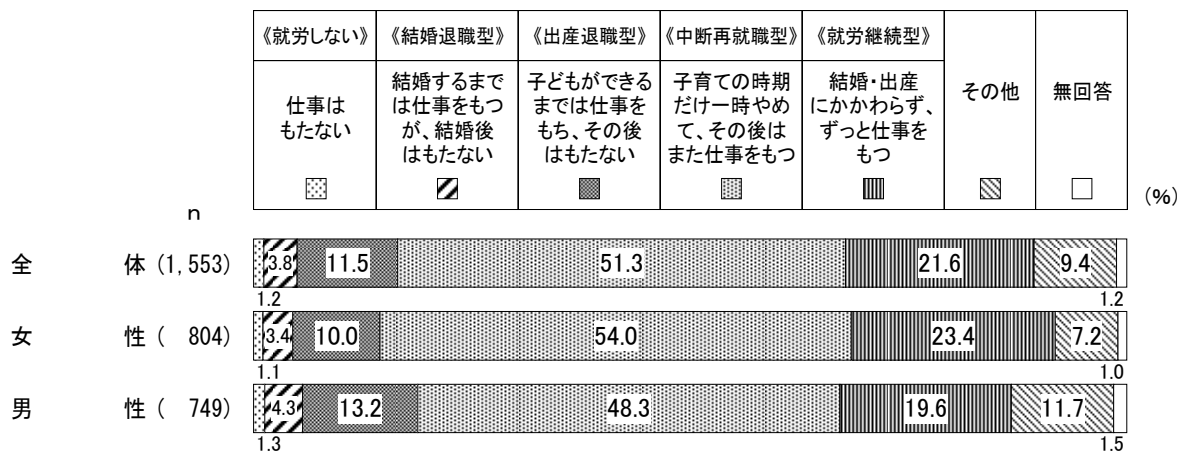
2-3 望ましい女性の働き方

◎男女ともに《中断再就職型》への支持が高い。

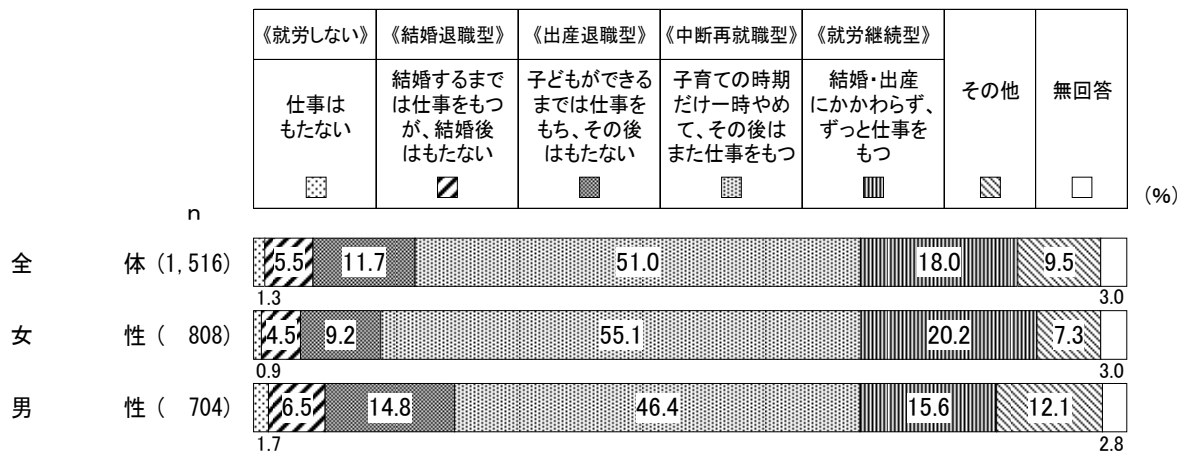
問 10 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

図 2-7-1 望ましい女性の働き方 (全体・性別)

【平成 21 年度全体・性別】



【平成 16 年度全体・性別】



望ましいと思う女性の働き方としては、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をもつ」という《中断再就職型》が51.3%と特に多くなっている。

「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」という《就労継続型》は21.6%、「子どもができるまでは仕事もち、その後はもたない」という《出産退職型》は11.5%、「結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない」という《結婚退職型》は3.8%であった。

(図2-7-1)

【性別】

性別で見ると、男女とも《中断再就職型》が多いが、その比率は女性の54.0%に対して男性は48.3%となり、女性からの支持がより大きい。男性では《出産退職型》などの退職／家庭志向が女性よりやや多くなっている。(図2-7-1)

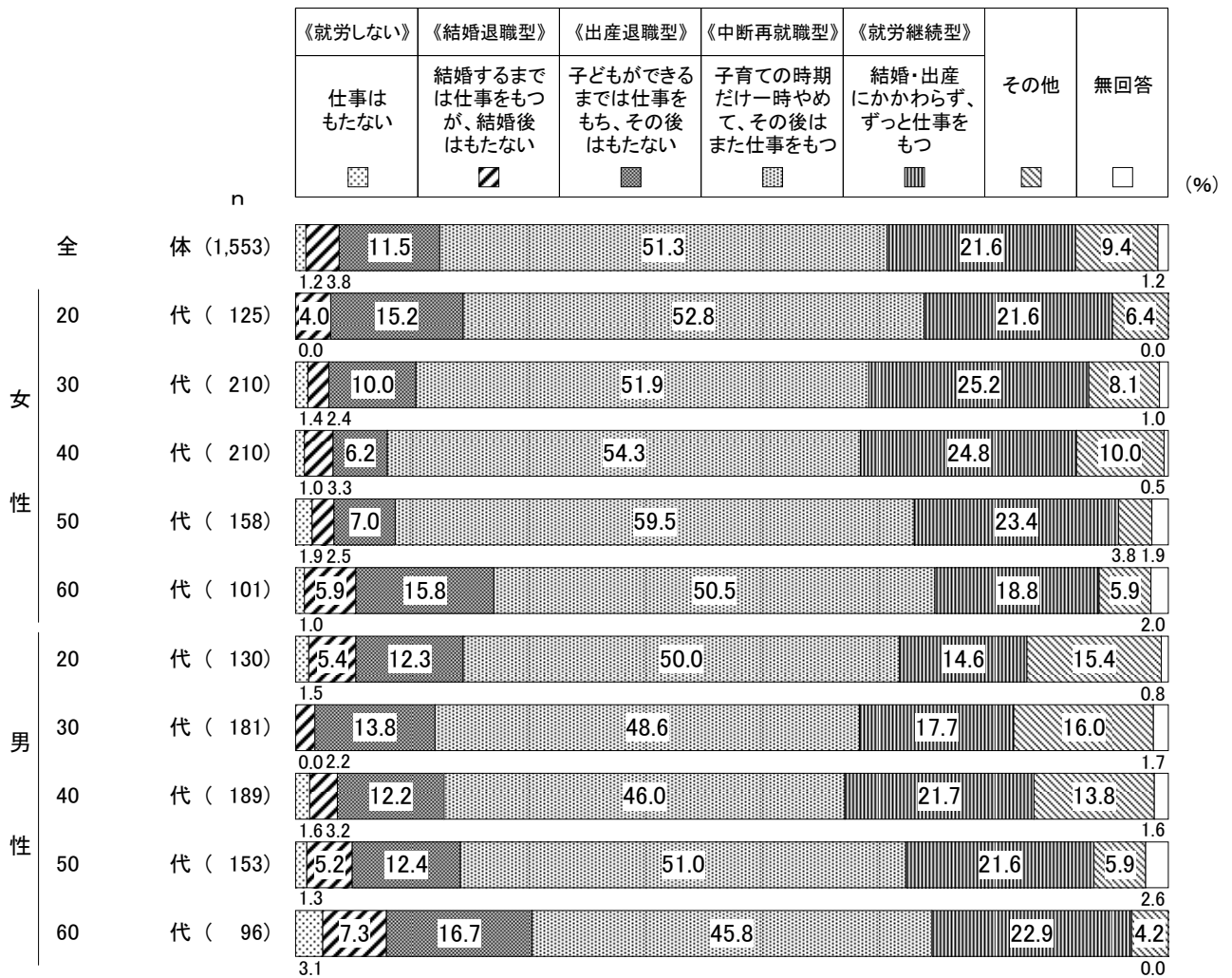
【過年度比較】

特に大きな変化はなく、依然として《中断再就職型》が多くなっている。(図2-7-1)

【性・年代別】

性・年代別で見ると、各年代で《中断再就職型》が大きな支持を集めている中で、女性 30代と40代では《就労継続型》が2割半ばと多く、男女共に60代では《出産退職型》が比較的多くなっており、若年層の就労志向、高年層の家庭志向がみてとれる。(図2-7-2)

図2-7-2 望ましい女性の働き方(性・年代別)

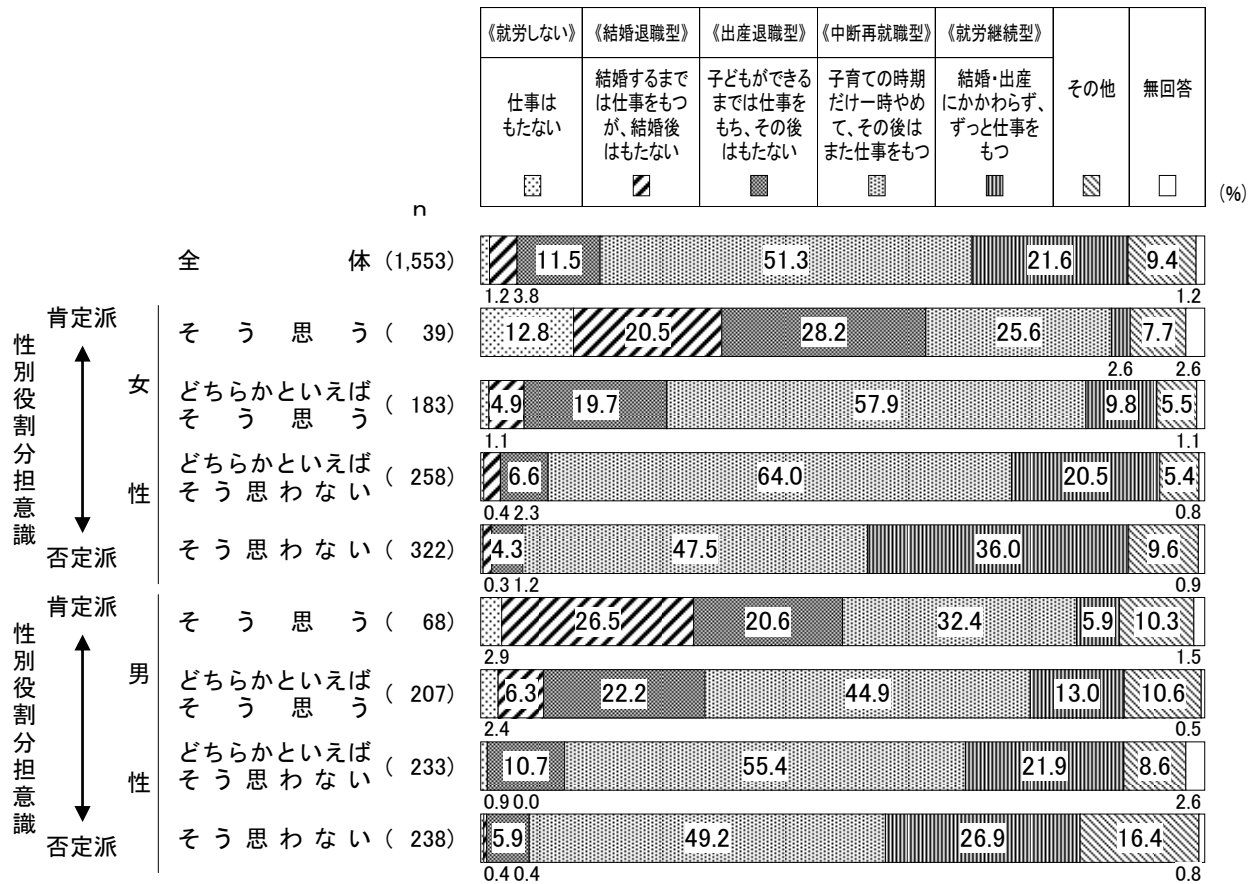


【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別にみた場合でも《中断再就職型》は多くの支持を得ているが、性別役割分担に肯定的な層では《出産退職型》や《結婚退職型》といった家庭志向が強く、否定的な層では《就労継続型》が多くなっており、性・年代別以上に分担意識との顕著な関連がみられる。

(図 2-7-3)

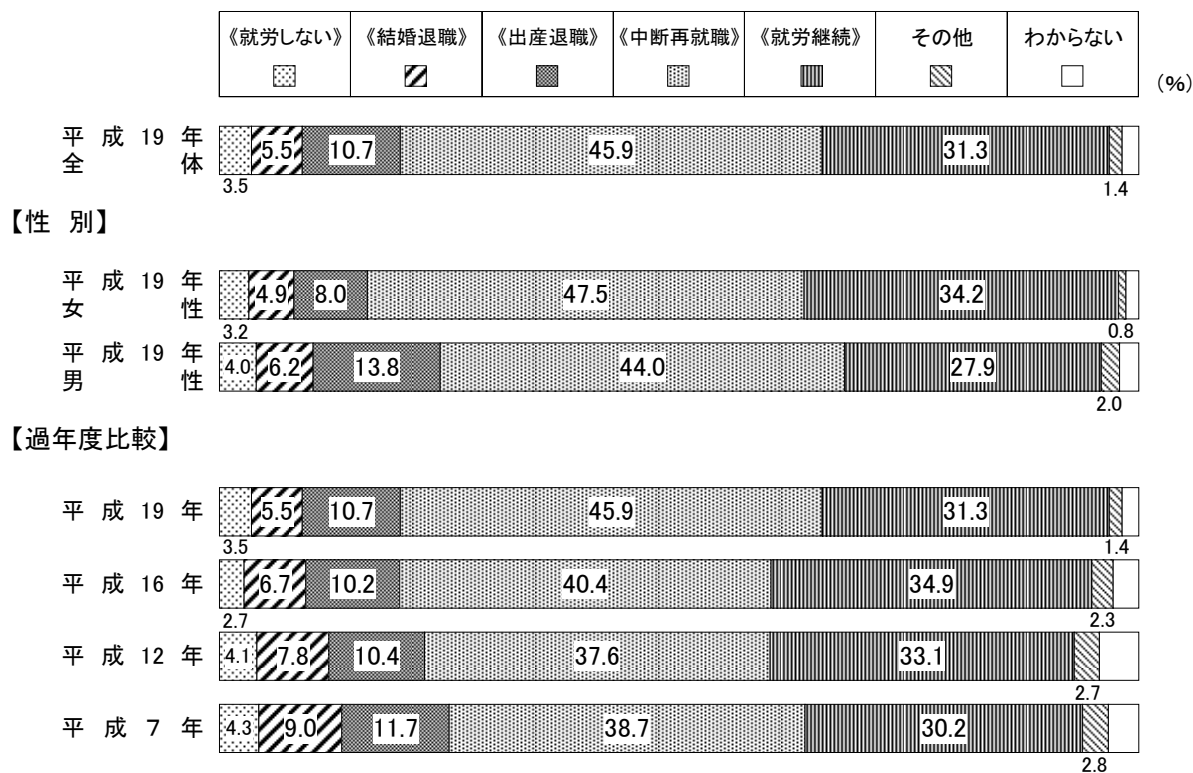
図 2-7-3 望ましい女性の働き方（性別役割分担意識別）



【参考 全国調査では】

内閣府の実施している「男女共同参画に関する意識調査」をみると、就労志向が軒増するとともに、平成19年調査では《中断再就職型》が4割半ばに達している。これと比較した場合、今回の区の結果は、就労志向としては変わらないものの、《中断再就職型》の高さと《就労継続型》の低さが際立っている。(図2-7-4)

図2-7-4 望ましい女性の働き方（内閣府）

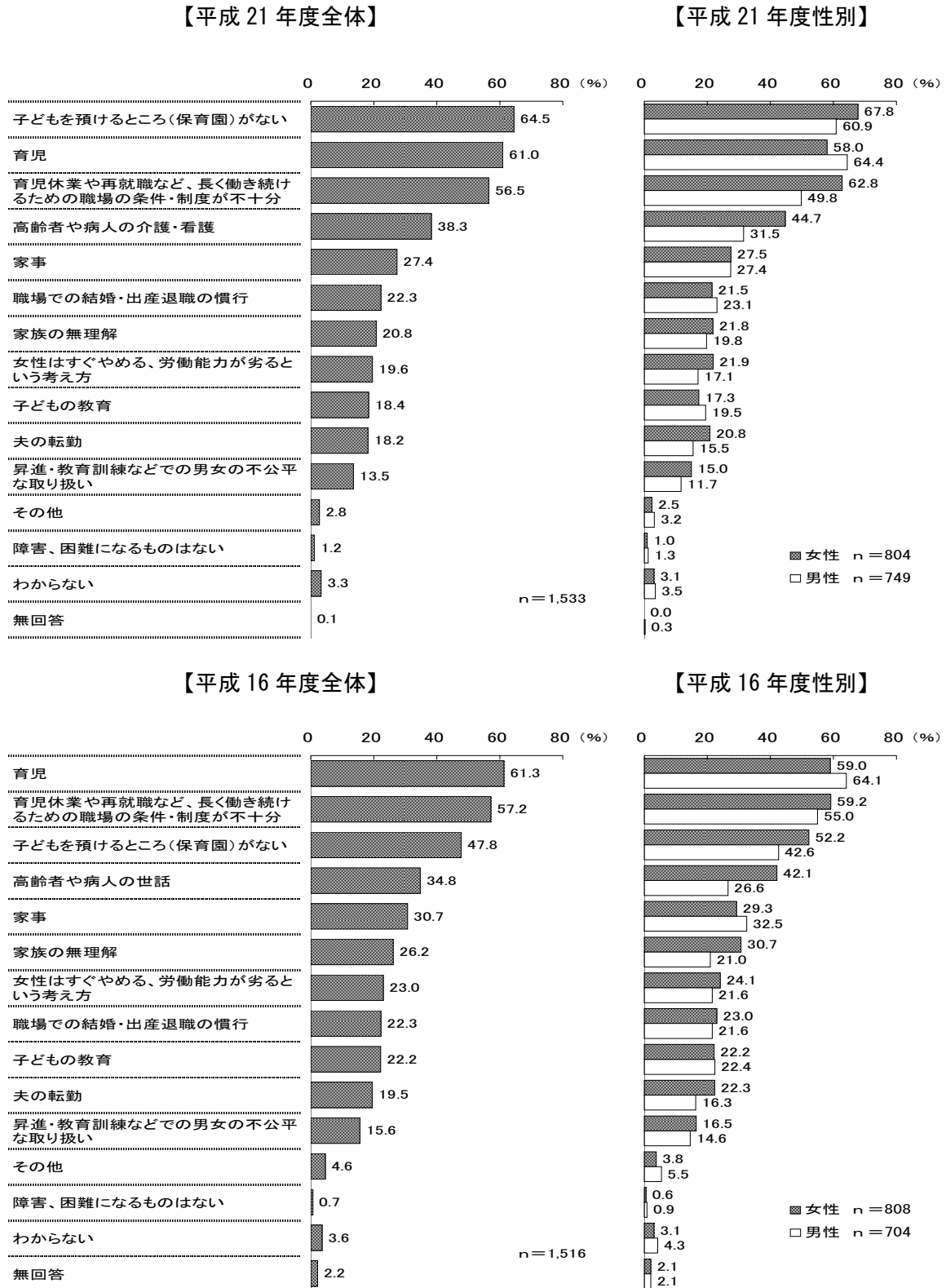


2-4 女性が長く働きつづけることの障害

◎「子どもを預けるところ（保育園）がない」が、平成16年度47.8%から平成21年度64.5%と増加

問11 女性が長く働きつづけることを困難にしたり、障害になっている理由は何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

図2-8-1 女性が長く働きつづけることの障害（全体・性別）



女性の長期就労継続の阻害要因としては、「子どもを預けるところ(保育園)がない」が64.5%で最も多く、以下「育児」(61.0%)、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」(56.5%)、「高齢者や病人の介護・看護」(38.3%)、「家事」(27.4%)の順で続いている。(図2-8-1)

【性別】

性別で見ても男女ともおおむね共通しているが、高齢化社会の中で今後さらに重要度を増してくる「高齢者や病人の介護・看護」では、女性の44.7%に対して男性では31.5%と13ポイント以上の差が生じ、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」でも女性の62.8%に対して男性では49.8%と13ポイント差が生じている。(図2-8-1)

【過年度比較】

「子どもを預けるところ(保育園)がない」は平成16年度47.8%から64.5%へと大きく増加しており、これは就労意向の拡大にともなう問題と思われる。(図2-8-1)

【ライフステージ別】

「育児」「職場の条件・制度の不十分」はいずれのライフステージでも多く指摘されている。「子どもを預けるところ（保育園）がない」は男女とも家族形成期で特に多く、女性で73.8%、男性で71.9%と7割を超えている。ライフステージ前半ではこの他に「家事」、ライフステージ後半では「高齢者や病人の介護・看護」が多くなっており、性別を超えたライフステージごとの問題が浮き彫りになっている。（図2-8-2）

図2-8-2 女性が長く働きつづけることの障害（上位10位）（ライフステージ別）

